

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壱岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300    遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30    炉などの詳細図 1:30  
土器実測図 1:4    土器拓影図 1:3    石器実測図 1:3、2:3    銭 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱     地山(ローム)     焼土   
土器 ●    石器★    黒曜石・チャート▲    礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文     撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2002年度埋蔵文化財調査一覧表

|      | 遺跡・地点名       | 申請地                     | 面積(㎡)  | 原因     | 試掘期間             | 調査期間                 | 備考             |
|------|--------------|-------------------------|--------|--------|------------------|----------------------|----------------|
| 1    | 亀居遺跡第56地点    | 亀久保2-13-14              | 172    | 個人住宅   | —                | 2002.11.5~11.21      | 教育委員会で本調査      |
| 2    | 鶴ヶ舞遺跡第6地点    | 鶴ヶ舞1-84                 | 474    | 個人住宅   | 2002.9.10~9.13   | —                    | 試掘調査           |
| 3    | 江川南遺跡第16地点   | 東久保1街区                  | 3,752  | 給油所    | 2002.9.24~10.4   | —                    | 試掘調査           |
| 4    | 江川南遺跡第17地点   | 東久保1街区20,22,23          | 474    | 土地区画整理 | 2002.10.29~11.11 | —                    | 試掘調査           |
| 5    | 亀久保堀跡遺跡第27地点 | 東久保31街区2,3画地            | 980    | 店舗     | 2002.6.10~6.11   | —                    | 試掘調査           |
| 6    | 東久保遺跡第50地点   | 東久保3-22                 | 102    | 個人住宅   | 2002.9.24        | —                    | 試掘調査           |
| 7    | 東久保遺跡第51地点   | 東久保18-11画地              | 155    | 個人住宅   | 2002.12.3        | —                    | 試掘調査           |
| 8    | 東久保遺跡第52地点   | 東久保4街区3画地               | 64     | 個人住宅   | 2003.2.6~2.7     | —                    | 試掘調査           |
| 9    | 東久保西遺跡第15地点  | 東久保9街区3画地               | 225    | 個人住宅   | 2003.2.3~2.5     | —                    | 試掘調査           |
| 10   | 東久保南遺跡第27地点  | 東久保63街区1画地              | 610    | 共同住宅   | 2002.5.29~6.7    | —                    | 試掘調査           |
| 11   | 東久保南遺跡第28地点  | 東久保60街区3・4画地            | 322    | 共同住宅   | 2002.9.13~9.21   | —                    | 試掘調査           |
| 12   | 東久保南遺跡第29地点  | 東久保64街区1・4画地            | 736    | 駐車場    | 2003.3.17~3.20   | —                    | 試掘調査           |
| 13   | 西ノ原遺跡第122地点  | 大井苗間西ノ原99-1             | 165    | 個人住宅   | —                | 2002.6.21~7.22       | 教育委員会で本調査      |
| 14   | 西ノ原遺跡第122地点  | 大井苗間西ノ原99-1             | 155    | 個人住宅   | —                | 2002.6.21~7.22       | 教育委員会で本調査      |
| 15   | 西ノ原遺跡第122地点  | 大井苗間西ノ原99-1             | 132    | 個人住宅   | —                | 2002.6.21~7.22       | 教育委員会で本調査      |
| 16   | 西ノ原遺跡第122地点  | 大井苗間西ノ原99-1             | 140    | 個人住宅   | —                | 2002.6.21~7.22       | 教育委員会で本調査      |
| 17   | 西ノ原遺跡第123地点  | 大井・苗間19街区10画地           | 252    | 共同住宅   | 2002.9.3~9.9     | —                    | 試掘調査           |
| 18   | 西ノ原遺跡第124地点  | 苗間137-2                 | 524    | 個人住宅   | 2002.10.2~10.6   | 2002.10.8~10.11      | 教育委員会で本調査      |
| 19   | 西ノ原遺跡第125地点  | 旭1-8-2                  | 182    | 個人住宅   | 2003.2.14~2.19   | —                    | 試掘調査           |
| 20   | 中沢前遺跡第20地点   | 大井・苗間33 35-8-1          | 762    | 老人介護施設 | 2003.2.3~2.5     | 2003.4.7~6.3         | 試掘後、調査会で本調査    |
| 21   | 中沢前遺跡第24地点   | 大井・苗間30-5               | 185    | 個人住宅   | 2003.2.7~2.13    | —                    | 試掘調査           |
| 22   | 神明後遺跡第18地点   | 苗間304-1,303-6           | 672    | 分譲住宅   | 2002.5.15~5.25   | 2002.5.27~6.21       | 試掘後、調査会で本調査    |
| 23   | 神明後遺跡第19地点   | 苗間264-4                 | 216    | 個人住宅   | 2002.9.18~20     | —                    | 試掘調査           |
| 24   | 神明後遺跡第20地点   | 苗間293-11                | 143    | 個人住宅   | 2003.1.14~1.15   | —                    | 試掘調査           |
| 25   | 神明後遺跡第21地点   | 苗間283-1                 | 674    | 造成     | 2003.1.10~1.30   | —                    | 試掘調査           |
| 26   | 浄禅寺跡遺跡第22地点  | 苗間373-5,377-5・3・4,373-8 | 935    | 分譲住宅   | 2002.4.23~5.14   | —                    | 試掘調査           |
| 27   | 大井宿遺跡第7地点    | 大井・苗間37街区14画地           | 257    | 事務所    | 2002.4.15~4.16   | —                    | 試掘調査           |
| 28   | 大井宿遺跡第9地点    | 大井1-3-14,15             | 1,617  | 宅地造成   | 2003.2.26~4.3    | 2004.7.30~9.3        | 試掘後、調査会で本調査    |
| 29   | 大井氏館跡遺跡第14地点 | 大井・苗間129街区2画地           | 984    | 共同住宅   | 2002.5.22~6.6    | 2002.6.20~8.9        | 試掘後、調査会で本調査    |
| 30   | 大井氏館跡遺跡第15地点 | 大井・苗間126街区1画地           | 135    | 個人住宅   | 2002.7.24~8.2    | —                    | 試掘調査           |
| 31   | 大井氏館跡遺跡第16地点 | 大井2-242-1               | 677    | 個人住宅   | 2002.8.5~8.22    | 2002.8.23~9.5        | 教育委員会で本調査      |
| 32   | 大井氏館跡遺跡第17地点 | 大井1-11-9                | 50     | 道路     | —                | 2002.11.19~12.2      | 教育委員会で本調査      |
| 33   | 大井氏館跡遺跡第18地点 | 大井・苗間80-6-9             | 476    | 個人住宅   | 2003.1.17~1.22   | —                    | 試掘調査、大井宿8地点を変更 |
| 34   | 本村遺跡第99地点    | 大井・苗間99-1               | 446    | 共同住宅   | 2002.6.19~21     | 2002.7.1~7.31        | 試掘後、調査会で本調査    |
| 35   | 本村遺跡第100地点   | 大井・苗間85街区7画地            | 463    | 分譲住宅   | 2002.8.20~8.26   | —                    | 試掘調査           |
| 36   | 本村遺跡第101地点   | 大井・苗間131-2              | 217    | 店舗併用住宅 | 2002.9.30~10.4   | —                    | 試掘調査           |
| 37   | 本村遺跡第102地点   | 大井・苗間101-7画地            | 1,264  | 共同住宅   | 2002.11.11~11.15 | 2002.12.11~2003.2.10 | 試掘後、調査会で本調査    |
| 38   | 本村遺跡第103地点   | 大井143                   | 237    | 個人住宅   | 2003.2.13~2.18   | —                    | 試掘調査           |
| 39   | 本村遺跡第113地点   | 東原52-22                 | 1,051  | 駐車場    | 2002.8.22        | —                    | 試掘調査、地点を後付加    |
| 40   | 東台遺跡第39地点    | 大井626-8                 | 100    | 個人住宅   | 2002.6.3~6.20    | —                    | 試掘調査           |
| 面積合計 |              |                         | 21,181 |        |                  |                      |                |

## XV 神明後遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2005年3月現在25地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### 2 神明後遺跡第18地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2002年4月30日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、近接地では縄文時代の住居跡を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

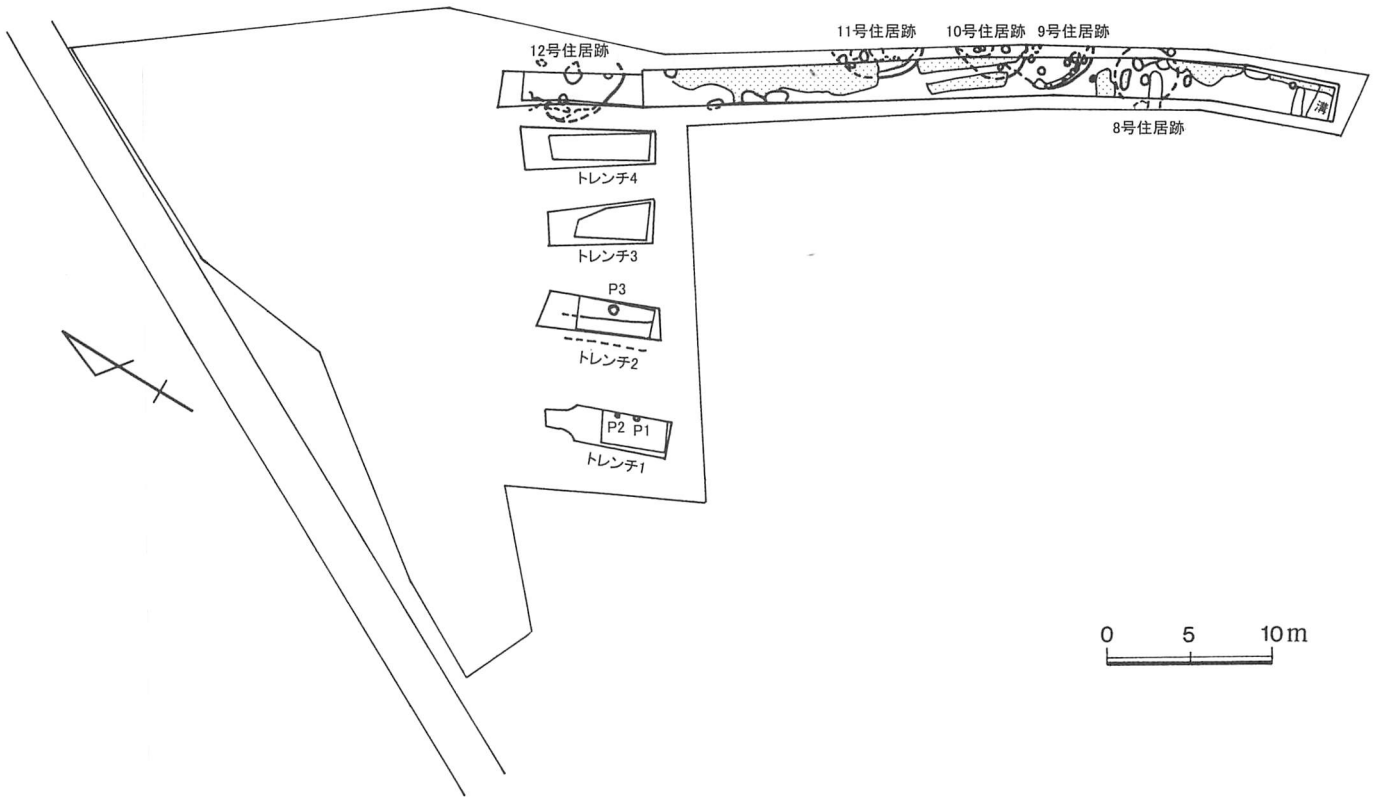
調査は2002年5月13日から同年5月25日に行なった。幅約2mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、全てのトレンチで遺構覆土と思われる黒色土を検出した。遺構の性格を確認するため一部掘り下げて調査したところ、縄文時代の住居跡と時期不明の溝であった。原因者と再協議の結果開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は2002年5月27日から同年6月21日まで大井町遺跡調査会が行ない、縄文時代時代中期住居跡5軒、土坑、古代～中世の堀跡を検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

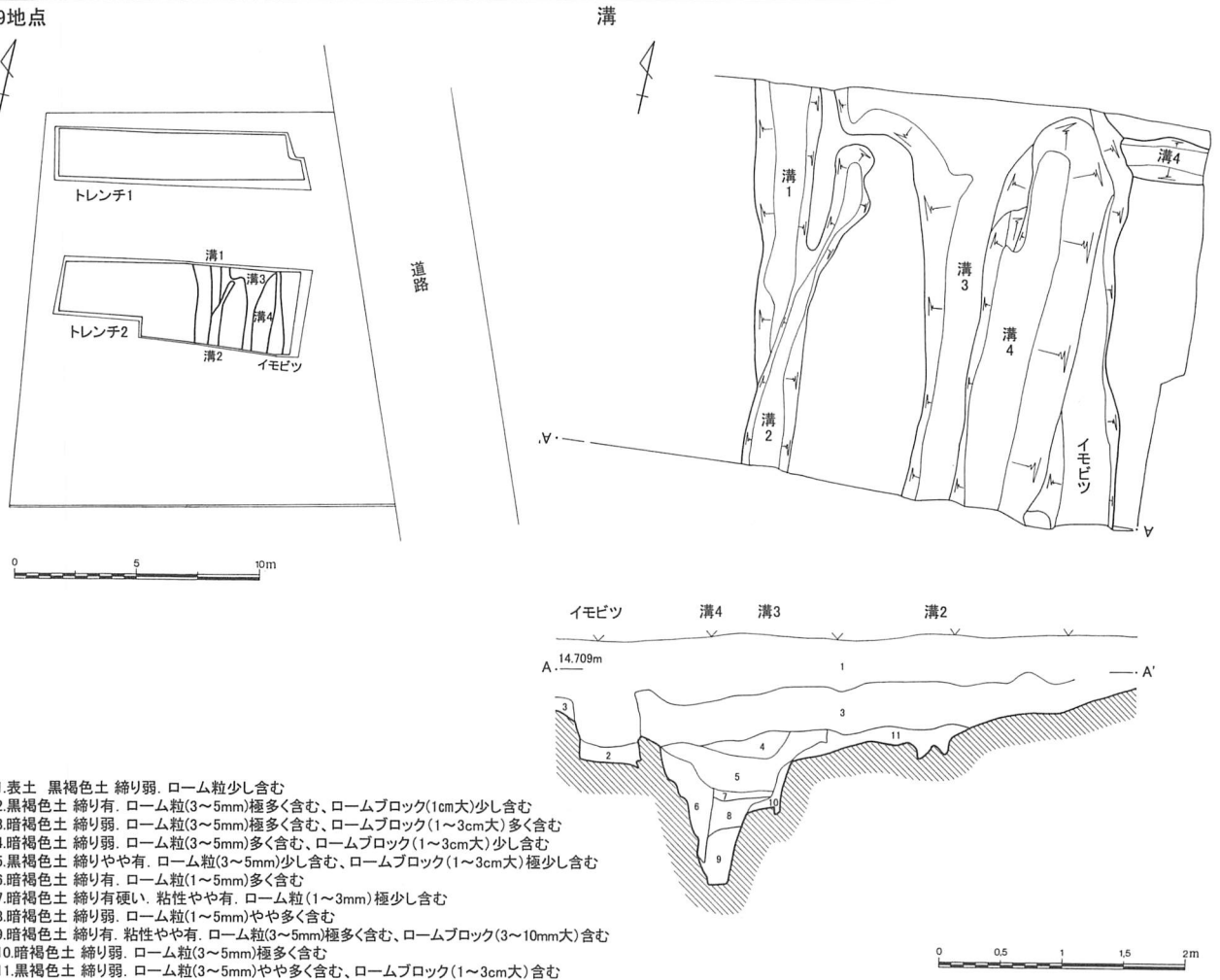


第62図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

18地点



19地点



第63図 神明後遺跡第18・19地点地点遺構配置図 (1/500・1/300)、溝 (1/60)

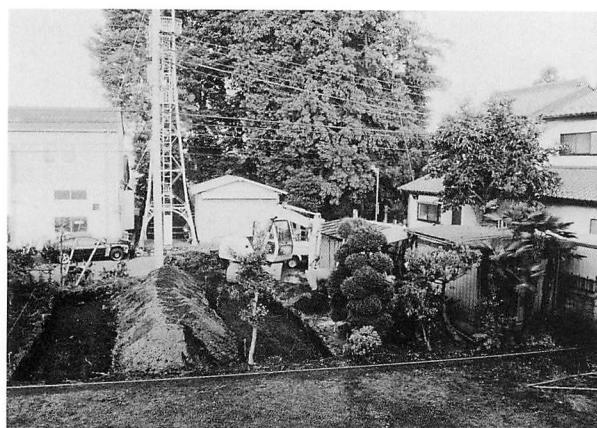




神明後遺跡第18地点試掘調査



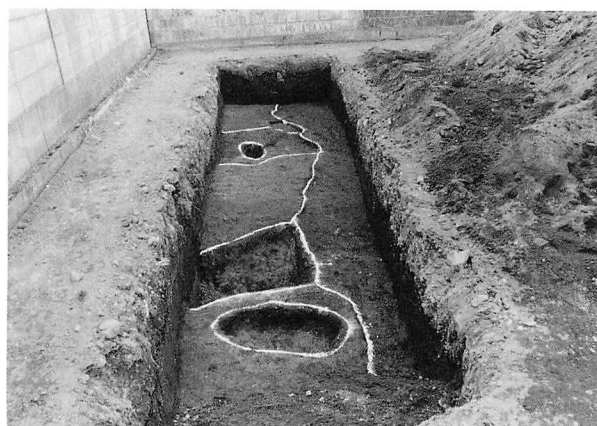
神明後遺跡第18地点溝



神明後遺跡第19地点試掘調査



神明後遺跡第19地点溝



神明後遺跡第20地点試掘調査



神明後遺跡第20地点試掘調査



神明後遺跡第21地点試掘調査



神明後遺跡第21地点本調査





神明後遺跡第18地点 8号住居跡 土坑 2・5



神明後遺跡第18地点 8号住居跡 炉



神明後遺跡第18地点 9号住居跡 伏甕 (No.10)



神明後遺跡第18地点 9・10号住居跡





神明後遺跡第18地点 11号住居跡



神明後遺跡第18地点 12号住居跡





神明後遺跡第18地点 12号住居跡出土  
垂飾① (No.87)



神明後遺跡第18地点 12号住居跡出土  
垂飾② (No.88)



神明後遺跡第18地点 12号住居跡出土  
垂飾③ (No.89)

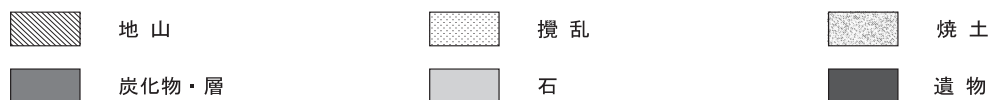


神明後遺跡第18地点 出土遺物 (No.23・No.10・No.22：左から)

# 凡 例

1. 本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

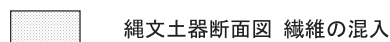
- (1) 縮尺はその都度図中に示している。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔を示す。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示は以下のとおりである。また、遺物出土状況のドットの指示はその都度図中に示している。



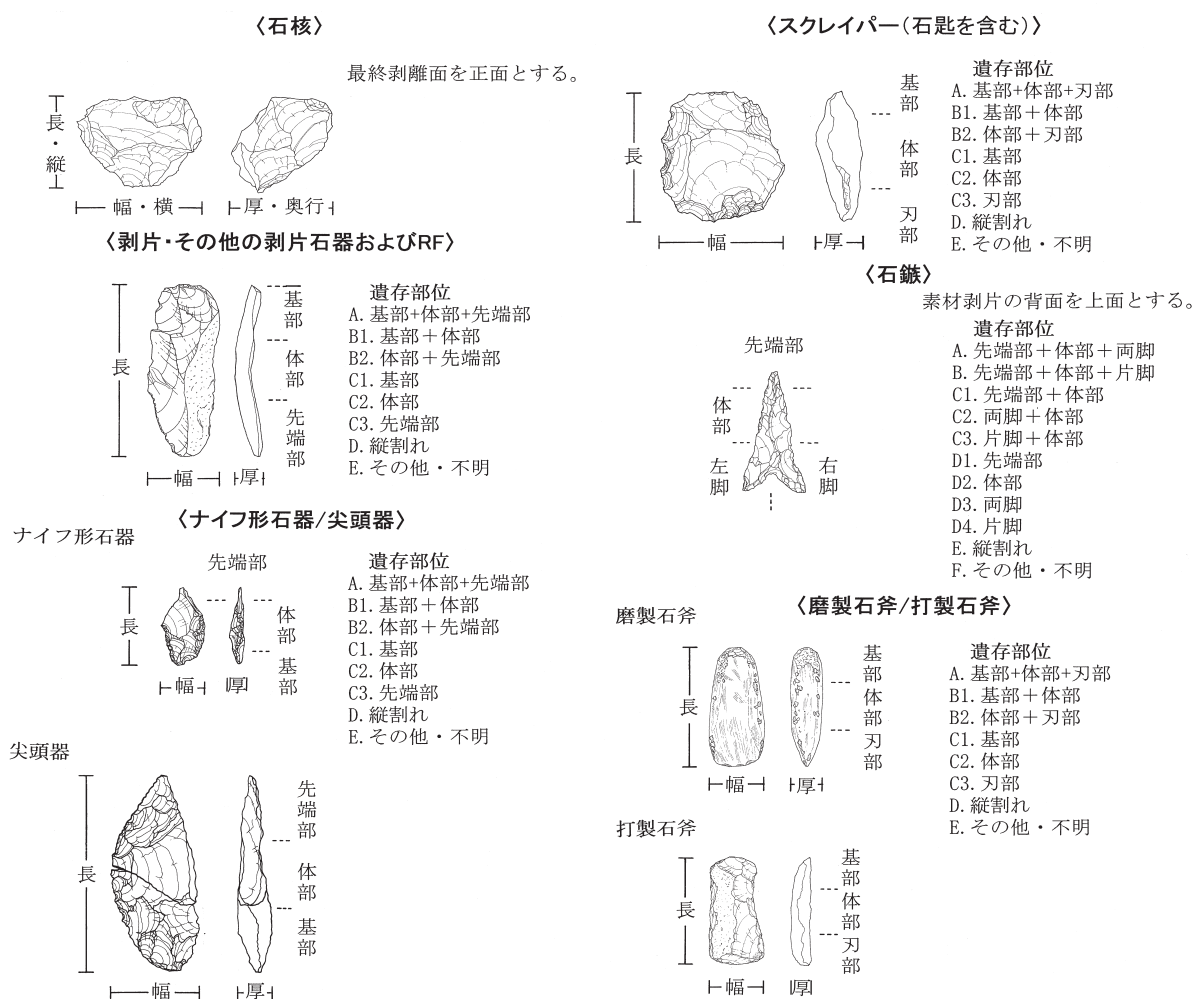
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

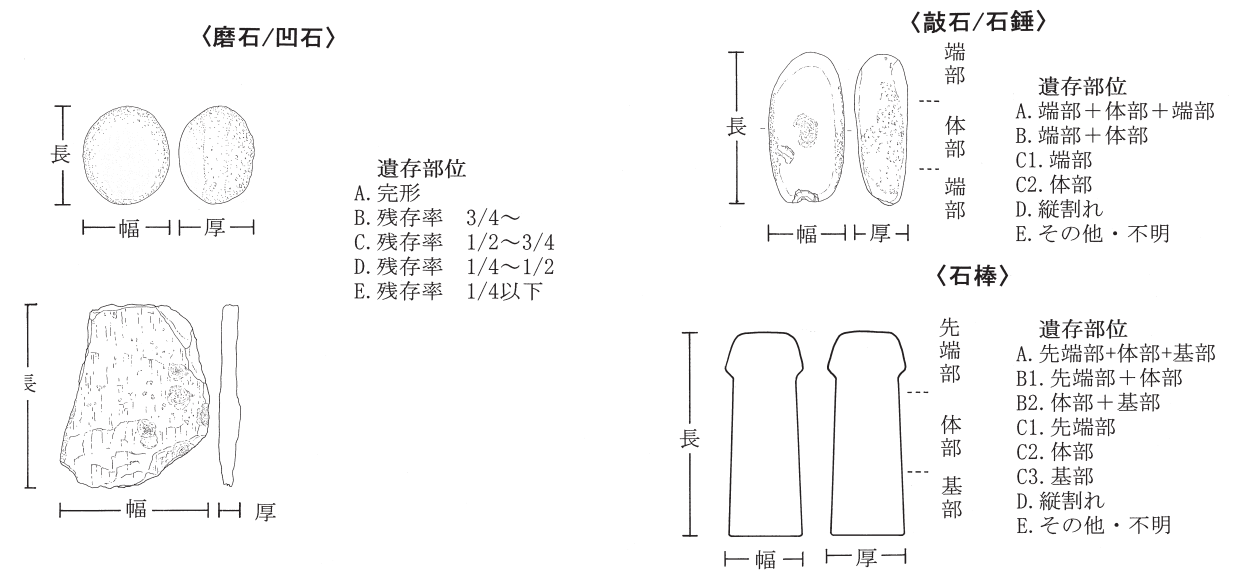
3. 本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 遺物番号は地点ごとに1からはじまる。
- (2) 砥石実測図の断面における矢印の表示は、実線が砥面を、一点鎖線が加工痕の残存面を表す。
- (3) 遺物実測図における screen-tone の指示は以下のとおりである。



4. 旧石器・縄文土器・縄文石器の出土遺物観察表に記載した計測部位及び遺存部位は以下のとおりである。





5. 旧石器・縄文時代の遺物は以下のように分類した。

旧石器 石器分類表

| 器 種     | 群       | 類            | 器 種 | 群       |                                |
|---------|---------|--------------|-----|---------|--------------------------------|
| 細石刃     | (細分類無し) |              | 剥片類 | I       | 二次加工ある剥片（ＲＦ）<br>または使用痕ある剥片（ＵＦ） |
| 尖頭器     | (細分類無し) |              |     | II      | 縦長剥片（石刃含む）                     |
| ナイフ形石器  | I       | 縦長剥片（石刃含む）使用 |     | III     | 横長剥片                           |
|         |         | 1 一側縁調整      |     | IV      | 石核調整剥片                         |
|         |         | 2 二側縁調整      |     | V       | その他の剥片                         |
|         |         | 3 基部調整       |     | VI      | 砕片（チップ）                        |
|         |         | 4 切出し形       | I   | 細石刃核    |                                |
|         | II      | 横長剥片使用       | II  | 石刃核     |                                |
|         |         | 1 一側縁調整      | III | その他の石核  |                                |
|         |         | 2 二側縁調整      | I   | 打製石斧    |                                |
|         |         | 3 基部調整       |     | II      | 局部磨製石斧                         |
|         |         | 4 切出し形       | III | 磨製石斧    |                                |
|         | III     | 不定形剥片使用      | I   | 片面調整礫器  |                                |
|         |         | 1 一側縁調整      |     | II      | 両面調整礫器                         |
|         |         | 2 二側縁調整      | I   | 成形・調整無し |                                |
|         |         | 3 基部調整       |     | II      | 成形・調整あり                        |
| 4 切出し形  |         |              |     |         |                                |
| 角錐状石器   | (細分類無し) |              | 磨石  | (細分類無し) |                                |
| スクレーパー類 | I       | 削器           | 石皿  | (細分類無し) |                                |
|         | II      | 搔器           | 砥石  | (細分類無し) |                                |
|         | III     | 彫器           |     |         |                                |

縄文 石器分類表

| 器 種     | 群  | 類       | 器 種 | 群  | 類          |
|---------|----|---------|-----|----|------------|
| 尖頭器     |    | (細分類無し) |     |    |            |
| 石鏃      | I  | 無茎      | 石皿  | I  | 使用面が皿状に凹む  |
|         | II | 有茎      |     |    | 1 凹石と併用する  |
| 礫器      |    | (細分類無し) |     |    | 2 凹石と併用しない |
|         |    |         |     | II | 使用面が平坦     |
| スタンプ形石器 | I  | 側縁無調整   |     |    | 1 凹石と併用する  |
|         | II | 側縁調整あり  |     |    | 2 凹石と併用しない |
| 挟入磨石    |    | (細分類無し) | 砥石  |    | (細分類無し)    |



|      |                  |        |                             |           |                    |            |  |
|------|------------------|--------|-----------------------------|-----------|--------------------|------------|--|
| 打製石斧 | I                | 短冊形    |                             | 敲打器       | I 成形・調整無し          |            |  |
|      |                  | 1      | 両側縁が直線的でほぼ平行し、基部～先端部の幅がほぼ一定 |           | II 成形・調整あり<br>精製   |            |  |
|      |                  | 2      | 1 類に近いが、両側縁がやや外に膨らむ         | 石匙        | I                  | 1 横長       |  |
|      |                  | 3      | 先端部側がやや広がる                  |           |                    | 2 縦長       |  |
|      |                  | 4      | 先端部側がやや狭まる                  |           | II                 | 粗製         |  |
|      |                  | 5      | 両側縁に括れがある                   |           |                    | 1 横長       |  |
|      |                  | 6      | 全体に湾曲ないし屈折した平面形を呈する         | 2 縦長      |                    |            |  |
|      | II               | 撥形     |                             | スクレーパー    | I 削器               |            |  |
|      |                  | 1      | 側縁・先端とも直線的で、定角式的な形状         |           | II 搔器              |            |  |
|      |                  | 2      | 全体に丸みを帯びる                   |           | III 彫器             |            |  |
|      | III              | 分銅形    |                             | 剥片類       | I 2 次加工ある剥片。所謂 R F |            |  |
|      |                  | その他    |                             |           | II 使用痕ある剥片。所謂 U F  |            |  |
|      |                  | IV     | 1                           |           | 略円形または楕円形の平面形を呈する  | III 石核調整剥片 |  |
| 2    | 不定形              |        | IV その他の剥片                   |           |                    |            |  |
| 磨製石斧 | I                | 乳棒状    |                             |           | 石核                 | V 碎片       |  |
|      | II               | 定角式    |                             | (細分類無し)   |                    |            |  |
| 磨石   | I                | 平面形が円形 |                             | 楔状石器      | (細分類無し)            |            |  |
|      |                  | 1 厚い   | 錐 (ドリル)                     | (細分類無し)   |                    |            |  |
|      | 2 扁平             | 石錘     |                             | 挟入が 1 対   |                    |            |  |
|      | 平面形が長円形～棒状       |        | I                           | 1 切り目あり   |                    |            |  |
|      | 1 厚い             |        |                             | 2 切り目なし   |                    |            |  |
|      | 2 扁平             |        | II                          | 挟入が 2 対以上 |                    |            |  |
|      | 平面形が隅丸方形または隅丸長方形 |        |                             | 1 切り目あり   |                    |            |  |
|      | III              | 1 厚い   |                             | 2 切り目なし   |                    |            |  |
| 2 扁平 |                  | 石棒     | (細分類無し)                     |           |                    |            |  |

## 縄文 土器分類表

| 6 期区分 | 群          | 類                                 | 6 期区分 | 群                 | 類                 |
|-------|------------|-----------------------------------|-------|-------------------|-------------------|
| 草創期   |            |                                   |       |                   |                   |
| 早 期   | I          | 燃糸文土器                             | 中 期   | V                 | 中期後葉の加曾利 E 式土器    |
|       | II         | 押型文土器                             |       |                   | 1 「加曾利 E 式直前」段階   |
|       | III        | 沈線文土器                             |       |                   | 2 加曾利 E I 式古段階    |
|       | IV         | 擦痕文・条痕文土器                         |       |                   | 3 加曾利 E I 式新段階    |
|       |            | 1 無文または擦痕文                        |       |                   | 4 加曾利 E II 式古～中段階 |
|       |            | 2 条痕文                             |       | 5 加曾利 E II 式中～新段階 |                   |
| 前 期   | I          | 前半（関山・黒浜式）                        |       | VI                | 中期末葉の加曾利 E 式土器    |
|       | II         | 後半（諸磯・十三菩提式）                      |       |                   | 1 加曾利 E III 式     |
| 中 期   | I          | 中期初頭                              |       | VII               | 連弧文土器             |
|       |            | 1 五領ヶ台 I 式                        |       |                   | 1 隆帯または微隆起線による連弧文 |
|       |            | 2 五領ヶ台 II 式                       |       | VIII              | 沈線による連弧文          |
|       |            | 3 五領ヶ台～猪沢のいわゆる中間型式                |       |                   | 曾利式及び曾利式系統の土器     |
|       | II         | 中期前葉の勝坂式系統の土器                     | 後 期   | IX                | 有孔鏝付土器            |
|       |            | 1 猪沢式                             |       | I                 | 後期初頭の加曾利 E 式系統の土器 |
|       | III        | 2 勝坂 I 式                          |       |                   | II                |
|       |            | 中期中葉の勝坂式系統の土器                     |       | 1 I 式古段階          |                   |
|       | 1 勝坂 II 式  | 2 I 式新段階                          |       |                   |                   |
|       | 2 勝坂 III 式 | 3 II 式                            |       |                   |                   |
|       | IV         | 阿玉台式系統の土器                         |       | III               | 堀之内式              |
|       |            | 1 阿玉台 I a～I b 式                   |       |                   | 1 1式              |
|       |            | 2 阿玉台 II 式                        |       | 2 2式              |                   |
|       |            | 3 阿玉台 III～IV 式                    |       | IV                | 加曾利 B 式           |
|       |            | 4 胎土により阿玉台式に比定しうるが、文様構成は勝坂式的である土器 |       |                   | 1 1式              |
|       |            |                                   |       | 2 2式              |                   |
| 晩 期   |            | V                                 | 曾谷式   |                   |                   |
|       |            |                                   |       |                   |                   |

縄文土器分類における「類」は、原則として同一「群」内で時系列順 (旧→新) に設定した。

## 縄文 地文分類表

| 分 類            | 分 類                |
|----------------|--------------------|
| a 矢羽状沈線文       | r 刺突文／列点文          |
| b 半截竹管の腹による条線文 | s 櫛歯状条線文           |
| j 縄文           | w 集合沈線による波状文 (流水文) |
| l 集合沈線文／太目の条線文 | y 燃糸文              |
| n 無文           |                    |

### Ⅲ 神明後遺跡の調査

#### 1 遺跡の立地と環境（第24図）

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、これまでに27地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

#### 2 神明後遺跡第18地点

##### （1）調査の概要

本地点は神明後遺跡の北端に位置し、富士見市との境界を流れる砂川堀第二都市下水路の南に接する。本地点の南約200mの位置には、苗間神明神社がある。

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2002年4月30日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地周辺部の調査から、縄文時代中期後半の住居跡や縄文時代後期の土坑等が確認されており、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2002年5月15日から5月25日にかけて実施した。幅約2m×長さ約4～8mのトレンチを4本、および幅約2m×長さ約48mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査にて遺構・遺物の確認作業を行った。試掘調査の結果、縄文時代中期後半の住居跡5軒、縄文時代の炉穴1基、時期不明の溝2条、土坑・ピットが確認されたため、原因者と再協議し、原因者負担による本調査を実施することとした。本調査は5月27日から6月24日にかけて実施

した。

##### （2）遺構と遺物（第24～41図、第5～16表、

巻頭図版2～4、図版5～12）

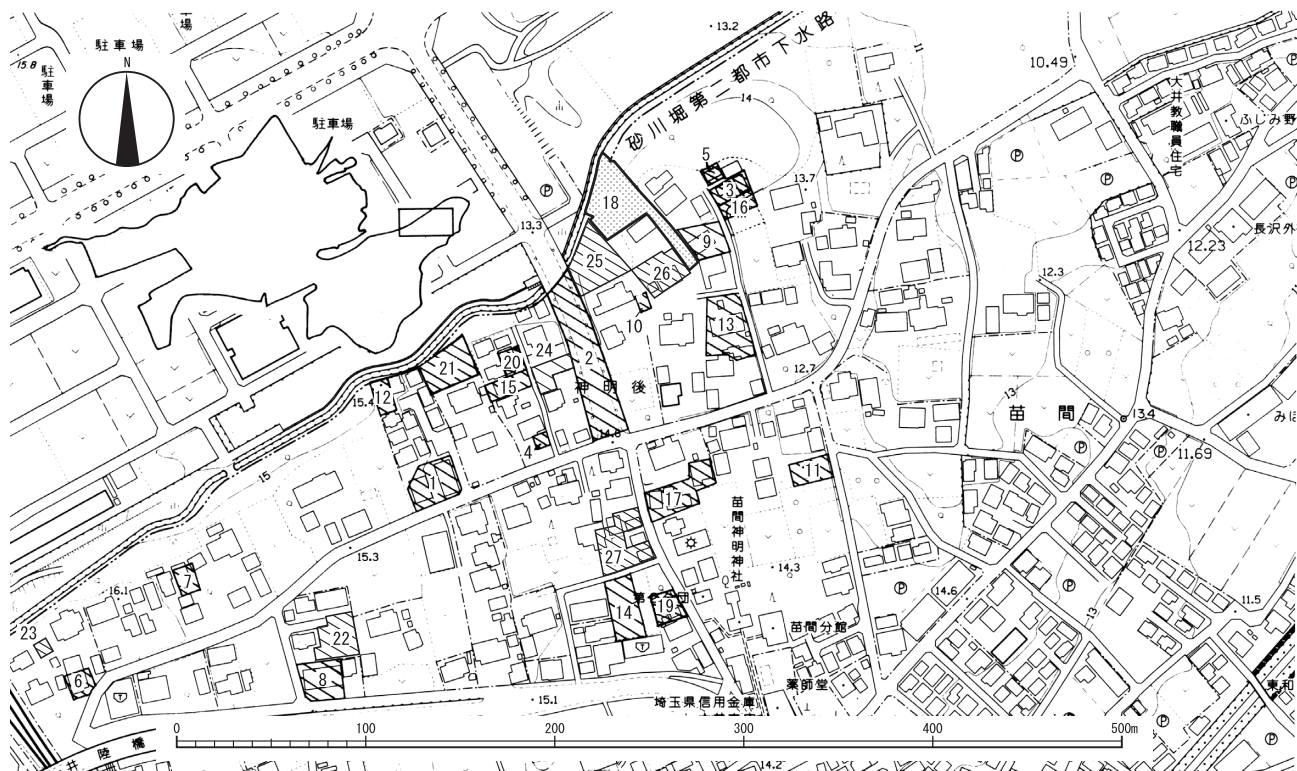
##### 〔縄文時代〕

試掘および本調査にて検出された遺構は、第5～7表に示す通りであり、そのうち縄文時代に帰属するのは、堅穴住居跡5軒（8～12号住居跡）・炉穴1基（炉穴1）である。以下、これらの概略を述べる。

【8号住居跡】本調査区の南側にて検出された。近～現代の耕作等により、床面付近まで削平されており、壁は残っていない。第28図上段の破線は、炉および柱穴P1の位置関係により規模を推定したもので、平面形は不明である。炉は石囲を伴う埋甕炉で、炉体土器は幅広の口縁部無文帯を有し、縄文地文の胴部を垂下隆体によって縦位区画する深鉢である。加曾利EⅠ式新段階に比定される（第33図1）。その他の出土遺物としては、覆土中より縄文中期後半に帰属すると考えられる土器小片が8点、P1より中期後半土器片1点と黒曜石・チャートの剥片が計3点検出された。

【9号・10号住居跡】調査区はやや南寄り、8号住居跡のすぐ北西側に位置する。南側に9号住居跡、北側に10号住居跡という位置関係で重複し、切り合い関係から10号住居跡が新しいと考えられる。東側は調査区外に位置し、2軒ともプランの約50%を検出したものと考えられる。9号住居跡は不整円形のプランを呈すると考えられ、床面は平坦で周溝を有する。炉は確認されず、調査区外に位置するものと考えられる。柱穴はP1～P5の5基が確認されたほか、周溝内に小ピットが存在する。10号住居跡は土坑3・4および攪乱による破壊が進んでおり、平面形は不明である。床面は平坦で、周溝を有する。炉は確認されない。柱穴はP1・P2の2基が検出された。出土遺物は、9号・10号住居跡あわせて、縄文土器299点・土製品3点・石器13点・礫150点を数える。遺構の帰属時期にかかわる遺物としては、9号住居跡南側の床面直上にて逆位で検出された、曾利Ⅱ式の深鉢（第33図10）があり、これによって9号住居跡の帰属時期は加曾利EⅠ式新段階～加曾利EⅡ式古相に比定されると考えられる。10号住居跡に関しては、明確に時期を示しうる出土状況の遺物は無い。なお、9号住居跡の覆土上部より前期後半の諸磯式土器破片（第33図2）が検出されてお





第24図 神明後遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第 5 表 神明後遺跡第18地点 住居跡一覧表

○内の数値は坪の数、（）内は残存値及び確認された規模、備考欄の巻頭番号は巻頭図版番号、写番号は写真図版番号

| 図版番号        | 住居名    | 位 置     | 形 状   | 規 模        |            |            | 炉         |    |    | 埋塞 | 周溝 | ピット<br>数 | 貼床  | 備 考 |                       |
|-------------|--------|---------|-------|------------|------------|------------|-----------|----|----|----|----|----------|-----|-----|-----------------------|
|             |        |         |       | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 地床 | 炉体 |    |    |          |     |     | 石垣                    |
| 25～28       | 8号住居跡  | 6-1トレンチ | 不明    | <580>      | —          | —          | 14.00     | —  | ①  | ①  | 不明 | ×        | (1) | ×   | 巻頭2、写5                |
| 25・27・29    | 9号住居跡  | 6-1トレンチ | <不整形> | (490)      | (270)      | 50         | 13.65     | —  | —  | —  | 不明 | ○        | (5) | ×   | 10号住居跡より旧。伏甕あり／巻頭2、写5 |
| 25・27・29    | 10号住居跡 | 6-1トレンチ | 不明    | (300)      | (250)      | 34         | 13.82     | —  | —  | —  | 不明 | ○        | (2) | ×   | 9号住居跡より新／巻頭2、写5       |
| 25～28       | 11号住居跡 | 6-1トレンチ | <不整形> | (490)      | (142)      | 55         | 13.52     | ?  | —  | ?  | 不明 | ○        | (4) | ○   | 巻頭3、写6                |
| 25・27・30・31 | 12号住居跡 | 5トレンチ   | <不整形> | (570)      | 550        | 80         | 12.00     | —  | —  | ?  | 不明 | ○        | (3) | ×   | 巻頭3、写6                |

第 6 表 神明後遺跡第18地点 遺構一覧表

（）内は残存値及び確認された規模、備考欄の巻頭番号は巻頭図版番号、写番号は写真図版番号

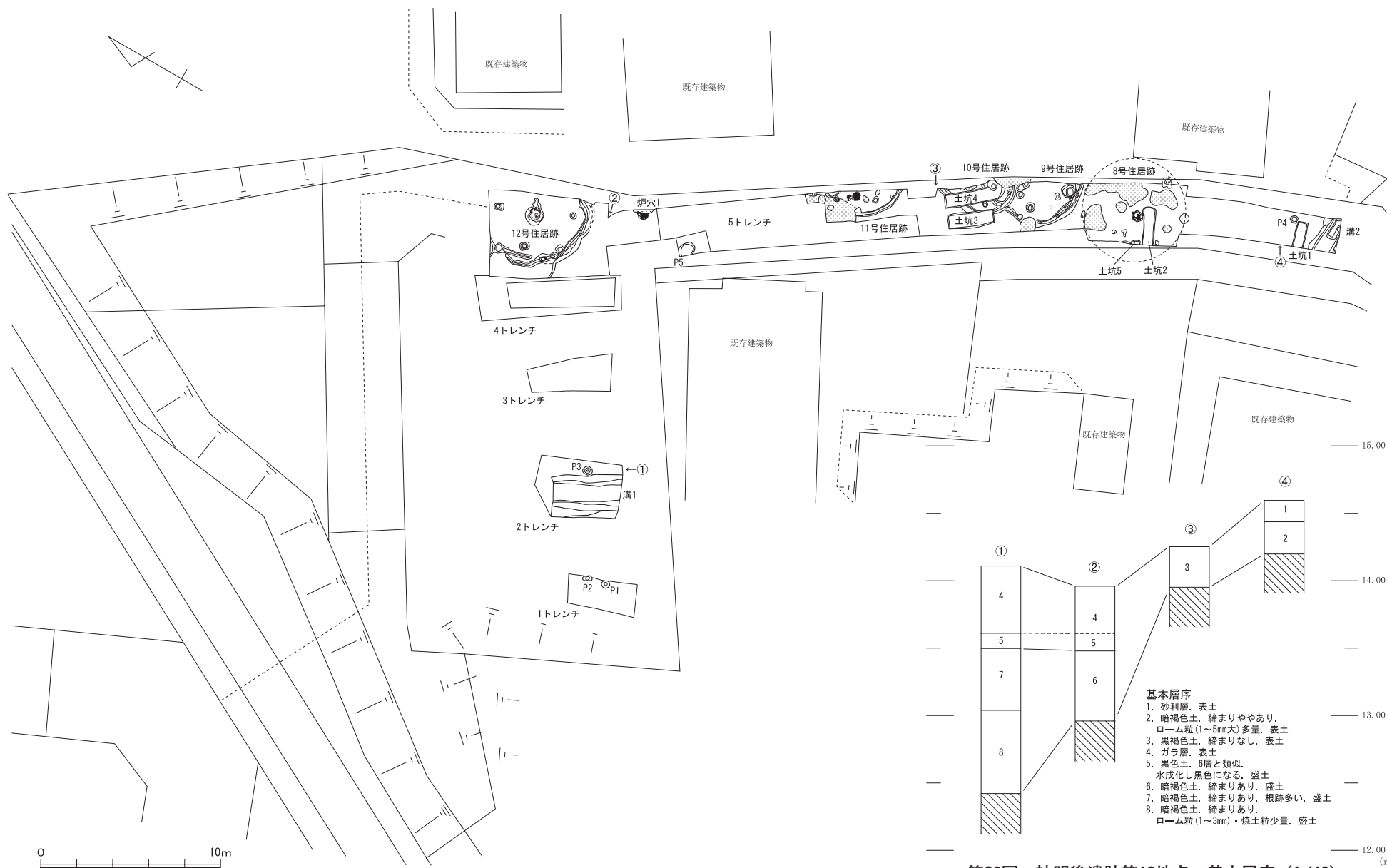
| 図版番号  | 遺構名 | グリッド    | 形状   | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m)       | 主軸方位    | 遺物 | 時期   | 備考                 |
|-------|-----|---------|------|------------|------------|------------|-----------------|---------|----|------|--------------------|
| 25・32 | 炉穴1 | 5トレンチ   | 楕円形か | (75)       | 115        | 25         | 12.75           | N-30°-E | ×  | 縄文時代 | 写7                 |
| 25・32 | 溝1  | 2トレンチ   | 箱薬研  | (370)      | 230        | 77<br>～103 | 11.19<br>～10.94 | N-30°-W | ×  | 中～近世 | 南北両側は調査区外に延びる／写7   |
| 25・32 | 溝2  | 6-1トレンチ | 箱薬研  | (210)      | 130        | 75         | 13.40           | N-87°-W | ×  | 中～近世 | 東西両側は調査区外に延びる／写7   |
| 25・32 | 土坑1 | 6-1トレンチ | 長方形  | (143)      | 63         | 36         | 13.80           | N-72°-E | ×  | 中～近世 | イモ穴。西側は調査区外に延びる／写7 |
| 25    | 土坑2 | 6-1トレンチ | 長方形  | (213)      | 65         | 40         | 13.69           | N-60°-E | ○  | 中～近世 | イモ穴。西側は調査区外に延びる／写5 |
| 25    | 土坑3 | 6-1トレンチ | 長方形  | 255        | 85         | 66         | 13.22           | N-42°-W | ○  | 中～近世 | イモ穴／写5             |
| 25    | 土坑4 | 6-1トレンチ | 長方形  | (335)      | 78         | 43         | 13.45           | N-42°-W | ○  | 中～近世 | イモ穴／写5             |
| 25    | 土坑5 | 6-1トレンチ | 長方形か | (32)       | 52         | 54         | 13.53           | —       | ×  | 中～近世 | イモ穴。西側は調査区外に延びる    |

第 7 表 神明後遺跡第18地点 ピット一覧表

（）内は残存値及び確認された規模、備考欄の写番号は写真図版番号

| 図版番号  | ピットNo. | 位置    | 形状  | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 備考 |
|-------|--------|-------|-----|------------|------------|------------|-----------|----|
| 25    | 1      | 1トレンチ | 円形  | 46         | (41)       | 40         | 11.76     |    |
| 25    | 2      | 1トレンチ | 楕円形 | 53         | 36         | 35         | 11.51     |    |
| 25・32 | 3      | 2トレンチ | 円形  | 55         | 50         | 69         | 11.76     | 写7 |

| 図版番号  | ピットNo. | 位置      | 形状  | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 備考     |
|-------|--------|---------|-----|------------|------------|------------|-----------|--------|
| 25・32 | 4      | 6-1トレンチ | 方形  | 40         | 40         | 70         | 13.02     | 写7     |
| 25    | 5      | 6-2トレンチ | 楕円形 | (100)      | 70         | 39         | 13.06     | 縄文ピットか |



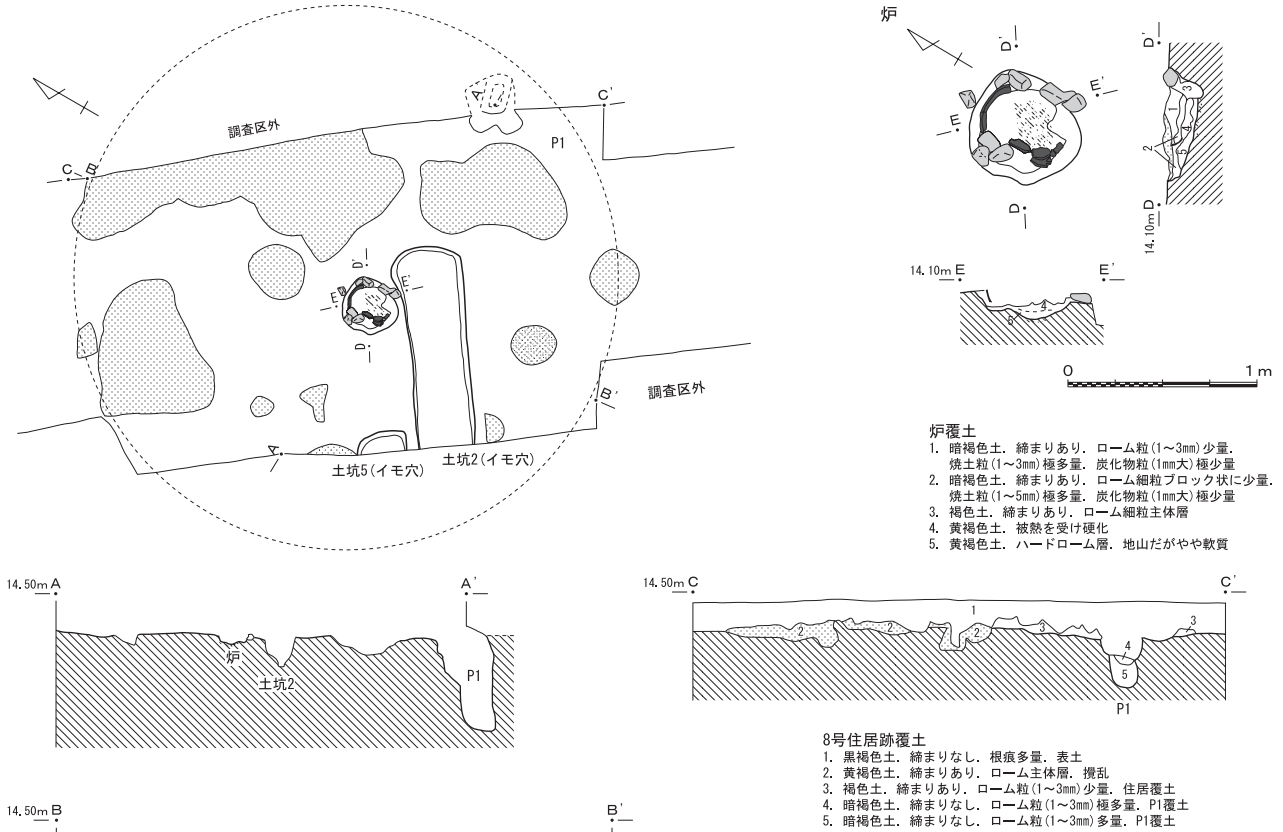
第25図 神明後遺跡第18地点 全体図 (1/300)

第26図 神明後遺跡第18地点 基本層序 (1/40)





## 8号住居跡

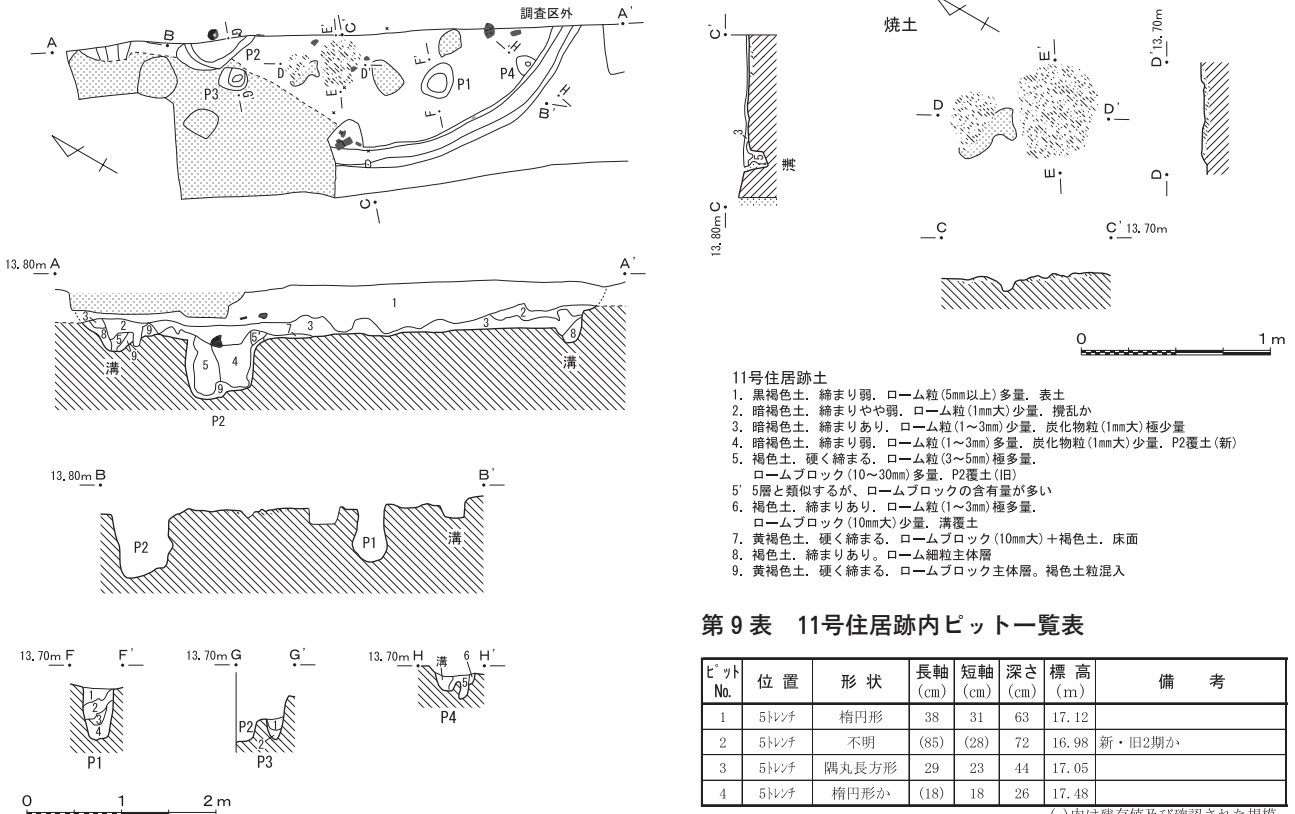


第8表 8号住居跡内ピット一覧表

| ピット<br>No. | 位置    | 形状   | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 備考 |
|------------|-------|------|------------|------------|------------|-----------|----|
| 1          | 5トレンチ | 長方形か | (44)       | (26)       | 98         | 17.28     |    |

( )内は残存値及び確認された規模

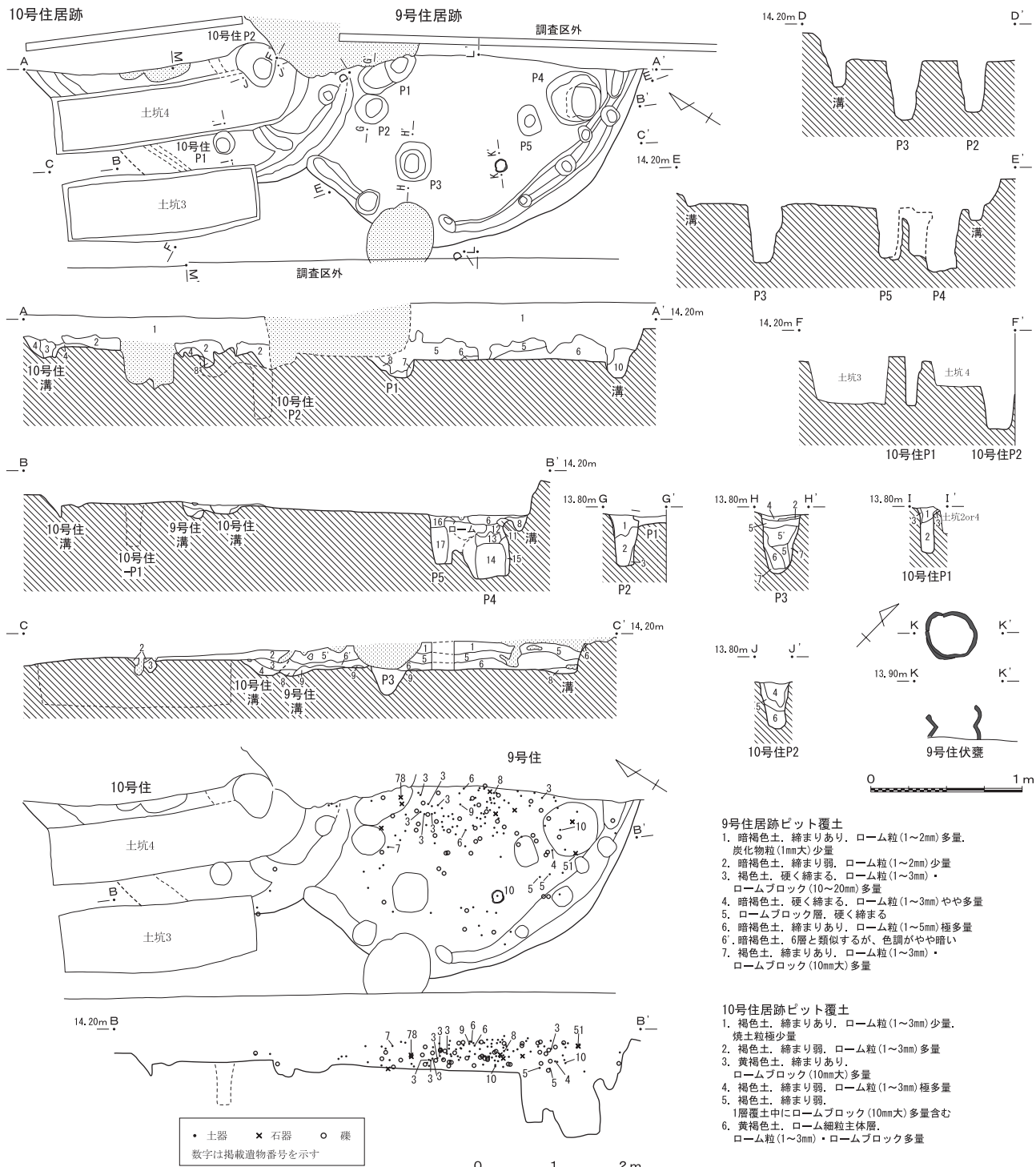
## 11号住居跡



第9表 11号住居跡内ピット一覧表

| ピット<br>No. | 位置    | 形状    | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 備考     |
|------------|-------|-------|------------|------------|------------|-----------|--------|
| 1          | 5トレンチ | 楕円形   | 38         | 31         | 63         | 17.12     |        |
| 2          | 5トレンチ | 不明    | (85)       | (28)       | 72         | 16.98     | 新・旧2期か |
| 3          | 5トレンチ | 隅丸長方形 | 29         | 23         | 44         | 17.05     |        |
| 4          | 5トレンチ | 楕円形か  | (18)       | 18         | 26         | 17.48     |        |

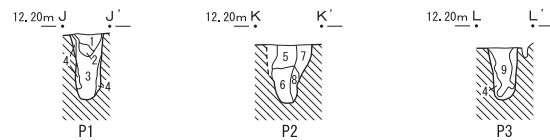
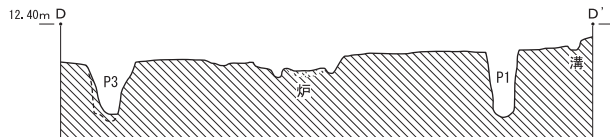
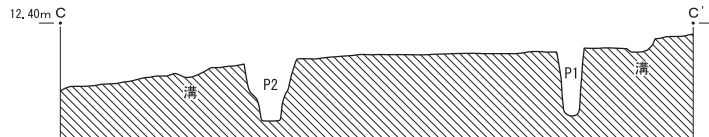
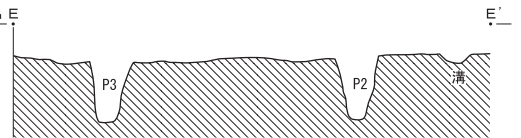
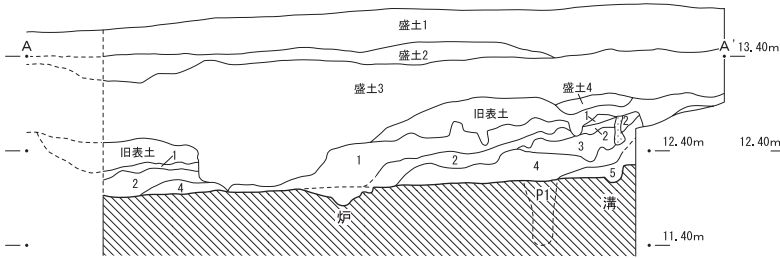
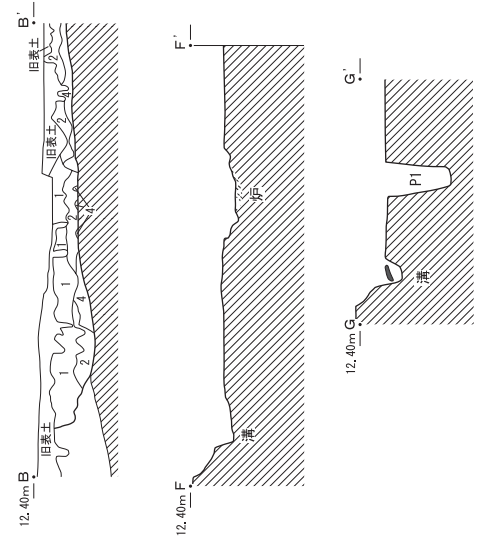
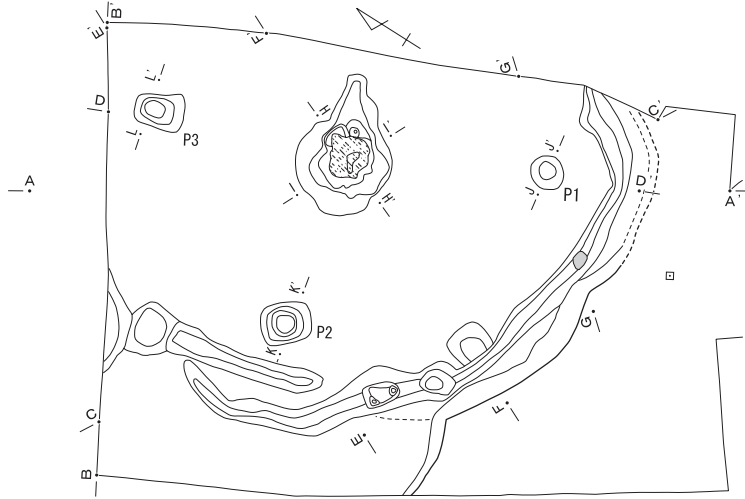
( )内は残存値及び確認された規模



第29図 神明後遺跡第18地点 9号・10号住居跡 (1/40・1/80)



12号住居跡



## ビット覆土

1. 暗褐色土。粘りあり。ローム粒(1~5mm)少量
2. 褐色土。粘りあり。ソフトロームブロック少量
3. 暗褐色土。粘りあり。ローム粒(2~5mm大)多量
4. 黄褐色土。粘りあり。ロームブロック(10mm大)多量
5. 褐色土。硬く締まる。ソフトロームブロック(10mm大)多量
6. 暗褐色土。粘りあり。ローム粒(1~3mm)少量
7. 褐色土。硬く締まる。ソフトロームブロック多量
8. 褐色土。粘りあり。ソフトロームブロック多量
9. 黄褐色土。粘りあり。ロームブロック(10mm大)多量

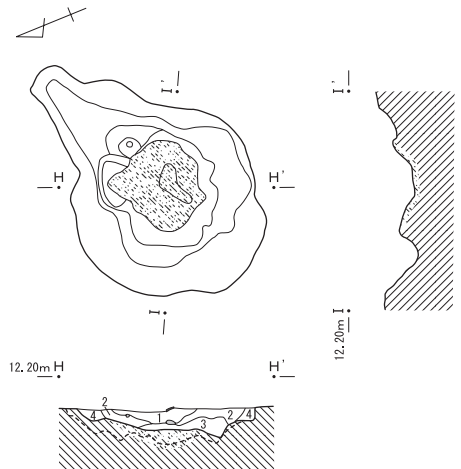
第12表 12号住居跡内ピット一覧表

| ピット<br>No. | 位置    | 形状  | 長軸<br>(cm) | 短軸<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 標高<br>(m) | 備考 |
|------------|-------|-----|------------|------------|------------|-----------|----|
| 1          | 5トレンチ | 円形  | 36         | 34         | 68         | 11.43     |    |
| 2          | 5トレンチ | 長方形 | 54         | 43         | 62         | 11.38     |    |
| 3          | 5トレンチ | 長方形 | 52         | 34         | 76         | 11.27     |    |

( )内は残存値及び確認された規模

## 12号住居跡覆土

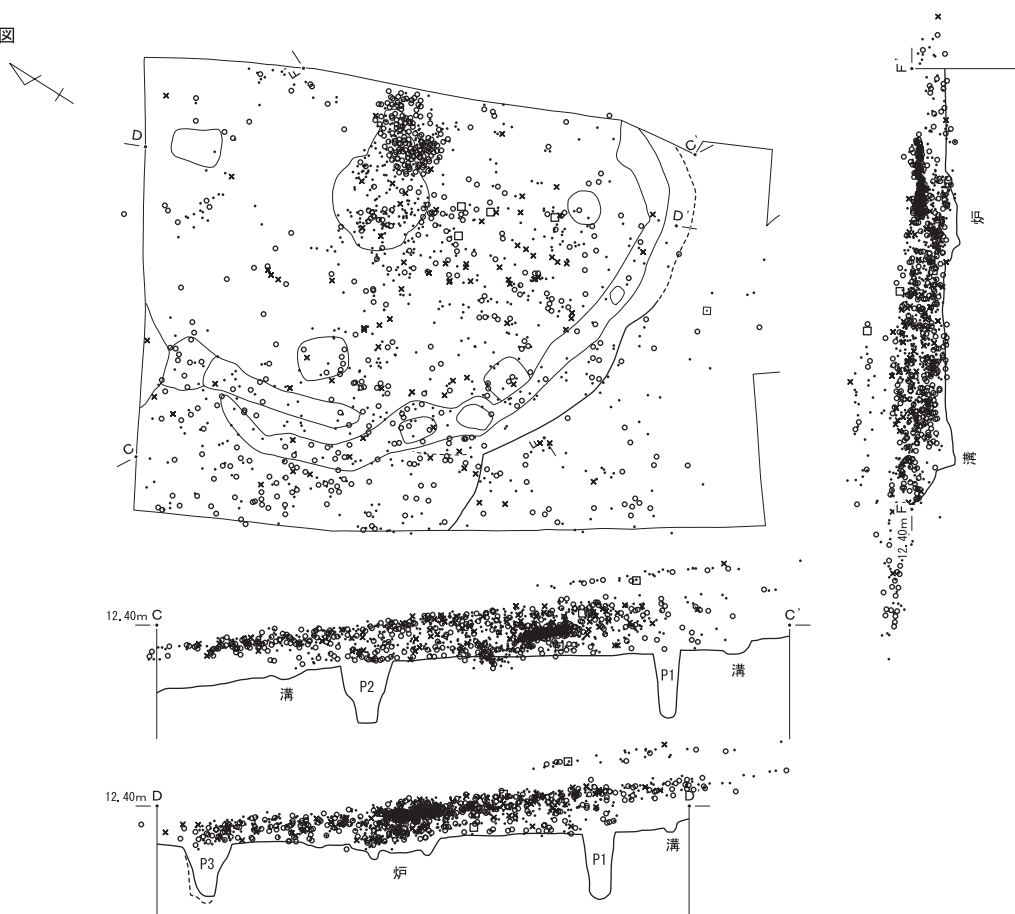
1. 黒褐色土。粘性・粘りあり。ローム粒(1~3mm)少量。焼土粒・炭化物粒(1mm大)極少量。土器出土。包含層
2. 暗褐色土。粘性・粘りあり。ローム粒(1~3mm)やや多量。ロームブロック(10mm大)極少量。土器出土。包含層
3. 褐色土。硬く締まる。ローム粒(1~3mm)・ロームブロック(10mm大)多量
4. 茶褐色土。粘りあり。ローム粒(1~3mm)極多量。焼土粒・炭化物粒(1mm大)多量
5. 黄褐色土。硬く締まる。ロームブロック(10mm大)多量。床面



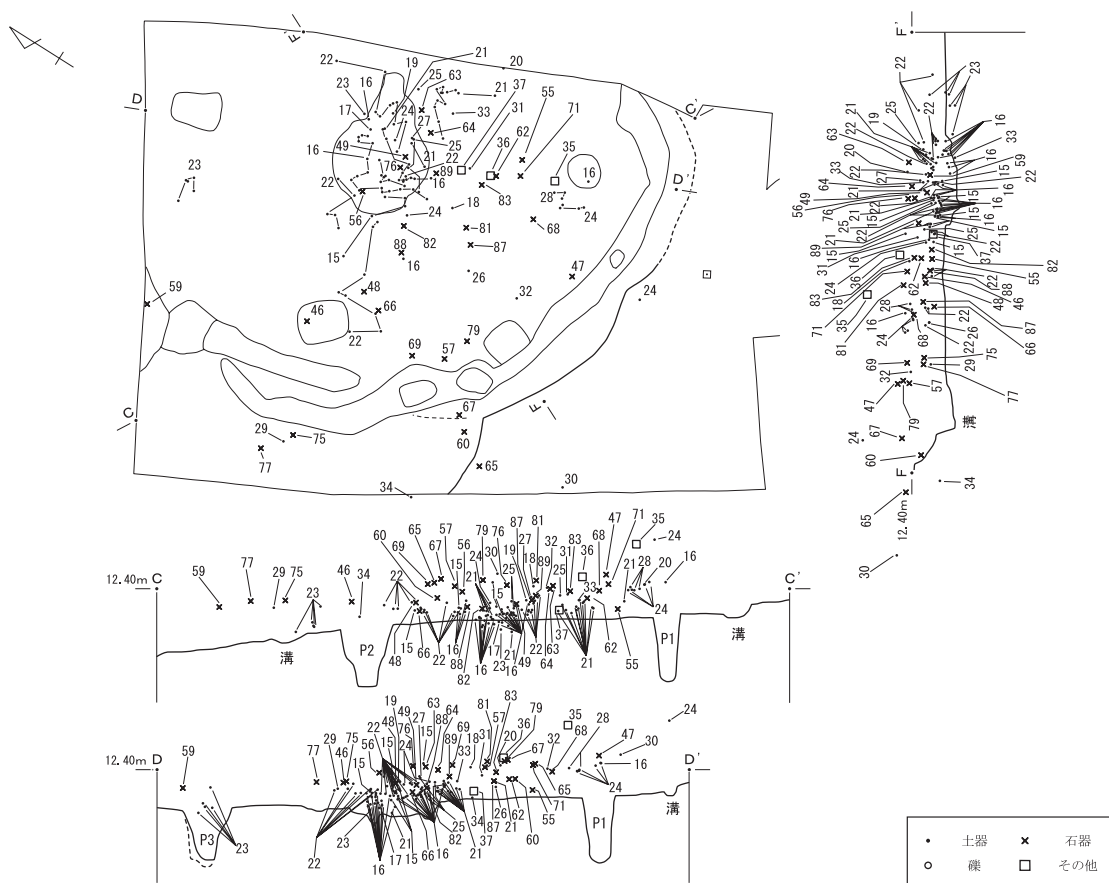
## 炉覆土

1. 暗褐色土。粘りあり。焼土粒(1~3mm)やや多量。炭化物粒(1mm大)少量
2. 暗褐色土。粘りあり。焼土粒(1~3mm)多量。炭化物粒(1mm大)少量
3. 褐色土(やや赤い)。硬く締まる。焼土粒(1mm大)少量
4. 褐色土。硬く締まる。ロームブロック(1mm大)多量

遺物出土分布図

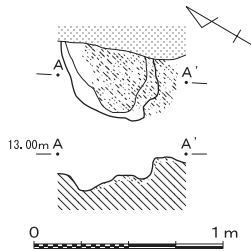


掲載遺物出土分布図

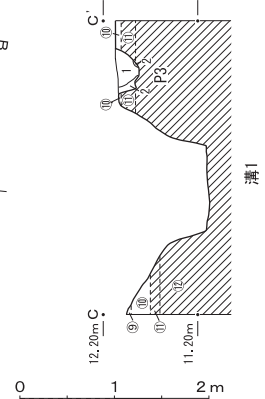
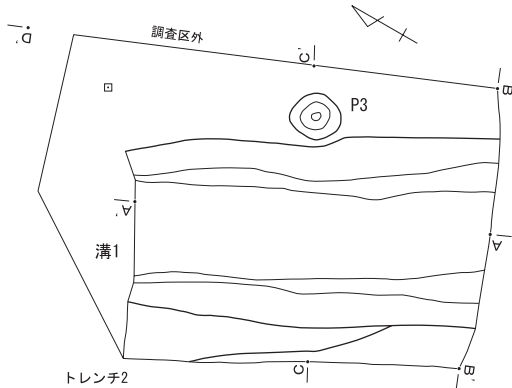
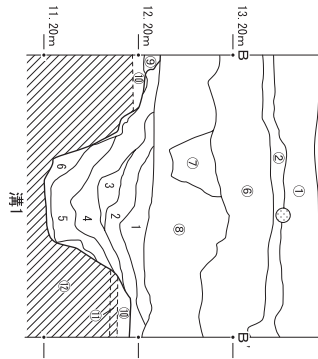
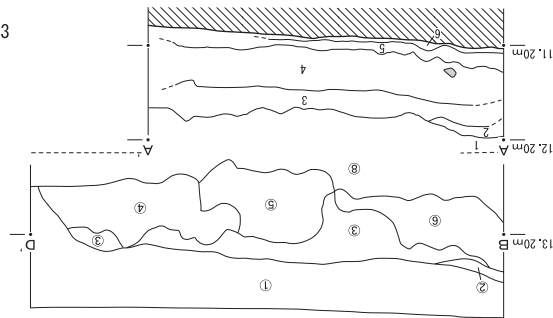


第31図 神明後遺跡第18地点 12号住居跡（2）（1/80）

炉穴1



溝1・P3



トレンチ2覆土

- ①. 3トレ1a
- ②. 3トレ1b
- ③. 暗褐色土。締まりなし
- ④. 暗褐色土。2層より締まりあり。  
粘土粒・礫混入。ゴミ穴
- ⑤. 暗褐色土。締まりなし
- ⑥. 暗褐色土。締まりあり
- ⑦. 暗褐色土。締まりなし
- ⑧. 暗褐色土。締まりあり。  
ローム粒(1~3mm)、焼土粒少量
- ⑨. 暗褐色土。
- ⑩. 黄褐色土。
- ⑪. ソフトローム。
- ⑫. ハードローム。

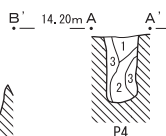
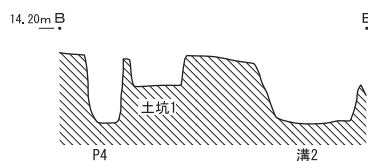
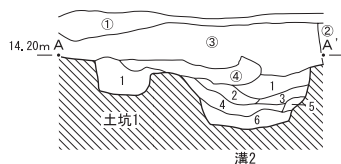
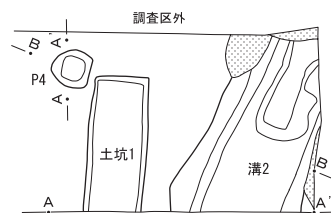
溝1覆土

1. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~3mm)含む。焼土粒少量
2. 黄褐色土。締まりあり。ローム粒(1~3mm)多量
3. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(3~5mm)多量
4. 黒褐色土。締まりあり。ローム粒(1~3mm)少量
5. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~5mm)極多量
6. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~5mm)極多量。  
ロームブロック(30mm大)多量

P3覆土

1. 暗褐色土。締まりややあり。ローム粒少量
2. ソフトローム粒主体層。締まりあり

溝2・土坑1・P4



溝2の上部

- ①. 砂利層
- ②. 褐色土。締まりややあり。ロームブロック極多量。下水管の埋土
- ③. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~5mm)多量。表土
- ④. 茶褐色土。締まりややあり。ローム粒(1~5mm)・ローム細粒極多量。  
ロームブロック(30mm大)少量

溝2覆土

1. 暗褐色土。締まりややあり。ローム粒(1~5mm)多量
2. 暗褐色土。締まりややあり。ローム粒(1~3mm)少量。ローム細粒少量
3. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(10mm大)多量
4. 茶褐色土。締まり弱。ローム粒(1~2mm)少量。ローム細粒多量
5. ロームブロック層
6. 茶褐色土。締まり弱。ローム粒(1~5mm)極多量。ロームブロック(10~30mm)多量

土坑1覆土

1. 茶褐色土。締まり弱。ローム細粒主体層。ローム粒(1~5mm)極多量。  
ロームブロック(10~30mm)多量

ピット4覆土

1. 暗褐色土。締まりあり。ローム粒(1~3mm)多量
2. 暗褐色土。締まりややあり。ローム粒(1~5mm)多量。焼土粒・炭化物粒極少量。  
1層より色調は暗い
3. 褐色土。締まりあり。ローム粒(1~3mm)極多量。ロームブロック(20~30mm)少量。  
ローム細粒多量



り、縄文時代前期の生活痕跡が近在する可能性を示唆する資料であると考えられる。

【11号住居跡】調査区の中央やや北よりに位置する。東側が調査区外に位置し、プランの約30～40%を検出したものと考えられるが、検出範囲の北西側は攪乱により大きく破壊される。平面形は不整円形と推測される。床面は平坦で、周溝を有する。壁は床面から約20cm残存する。柱穴はP 1～P 4の4基が確認され、位置・規模の点からP 1とP 2が主柱穴と考えられる。P 2において柱の建替えの痕跡が認められる。炉は検出範囲において明確なものは認められないが、P 1とP 2の中間の位置に、床面がよく焼けた部分（「焼土」）が認められる。出土遺物は、縄文土器43点・石器4点・礫15点を数える。土器は中期後半に帰属するものが大部分を占め、型式を明示しうる個体としては、2本一組の垂下沈線により条線地文の胴部を区画する加曾利E I式新段階併行の曾利式土器（第34図12）、櫛歯状条線地文に隆帯の波状懸垂文が付される曾利Ⅱ～Ⅲ式土器（第34図13）等が出土した。これらにより11号住居跡の帰属時期は、概ね加曾利E I式新段階に比定されよう。

【12号住居跡】調査区の北端に位置し、プランの約60～70%を検出したものと考えられる。平面形は不整円形を呈すると推測される。床面は平坦で、周溝を有する。壁は床面から約30cm残存する。柱穴はP 1～P 3の3基が確認された。これらの配置は丁度炉を中心とした長方形を呈し、4～5本柱穴タイプの住居の主柱穴であると考えられる。南側を住居の入口であると仮定すると、主軸はN-24°-Eを指す。なお、住居南側の周溝に重複して浅い窪みが3カ所ほど認められ、入口部小柱穴である可能性がある。炉は炉体土器・石囲とともに確認されない。しかしながら掘り込みの中央部付近が著しく赤化し、その周囲に不規則な形状の窪みが認められ、そのさらに外側では赤化が認められない。こうした特徴から地床炉とは断定せず、石囲炉の石が抜き取られた姿である可能性も考慮しておきたい。出土遺物は、縄文土器2023点・土製品14点・石器119点・礫1286点を数える。炉体土器は確認されないが、床面直上から覆土下部において、加曾利E I式新段階～加曾利E Ⅱ式古相に比定される土器の大型破片が多量に検出されている。その中でも16および23は破片が炉の近辺にまとまった状態で検出され、一部の破片は床面直上に位置する。これら2個体は加曾利E Ⅱ式古

相に比定されるものであり、したがって12号住居跡の帰属時期は加曾利E Ⅱ式期と推定される。なお本住居出土の遺物の中には、超小型の磨製石斧（第40図86）や垂飾り（第40図87～89）、および玉状石製品（第15表No.90：微小な遺物であるため図示不可能）のような優品が含まれており、このことも特筆すべき成果である。また専ら覆土上部より、町内では比較的稀な縄文時代後～晩期に帰属する資料（第36図29～34）が検出されており、該期の生活痕跡が近在する可能性を示唆するものとして重要である。

【炉穴1】調査区の北側、12号住居跡から約1.3m南東に位置する。東側を攪乱により破壊される。平面形は楕円形を呈するものと考えられ、主軸方位はN-30°-E前後、長軸は残存値で約75cmを測る。底面は凸凹が著しく、全体に被熱による赤化が認められる。伴出遺物は検出されず、詳細な帰属時期は不明である。

（桜井聖悟）

#### 〔古代以降〕

溝2条、土坑5基、ピット5基が検出されている。

【溝1】上面幅230cm、底面幅100cm、深さ77cm～103cmを測る断面形が箱葉研形の溝である。江川南遺跡や亀久保堀跡遺跡の「堀」との関連も考えられるが、若干形態と規模が異なる。すなわち溝1の断面形は底面から急角度に立ち上がるが、途中で角度を緩やかにして立ち上がる。これに対し前述の「堀」は逆台形の断面である。規模もひとまわり溝1が小さい（第47・49図参照）。さらに、この「堀」の推定される延長に本地点があるものの、本地点の北西側にはさかい川が東流しており、川を挟むということがどういうことか、問題が残る。また主軸方位も「堀」がN-83°-Wであるのに対し、溝1はN-30°-Wである。2002年に行われたテフラ分析結果から、掘削年代は平安時代（12世紀以前）に遡る可能性が指摘されている（附編自然科学分析）。

【溝2】上面幅210cm以上、底面幅80cm、深さ75cmを測る断面形が箱葉研形の溝で、規模は若干溝1より小規模である。主軸方位もN-87°-Wと異なる。

土坑に関してはすべて近世以降の所産と考えられる農業関連の貯蔵穴、いわゆる「イモ穴」である。ピットはP 5が縄文時代の可能性もあるが、ほかは中世以降と思われる。ただし配列等不明な点が多く、性格は確定できない。

出土した遺物は総計35点で、第41図に図示した6点を除き、大部分が小破片である。時期別にみると、古代では平安前期の須恵器坏1点のみで、中世がみられない。他は近世から近代にかけての陶磁器・土器・瓦・石製品（砥石）・金属製品（銭貨・釘）・その他（木炭・粘土塊）である。

図示した91・92は土坑4からの出土で、91は土師質の鳥居を模した土製品である。92は和釘。93は一見縄文時代の定角式磨製石斧のようにもみえるが、石材が上州の流紋岩であることから、近世の砥石と判断した。94～96は銭貨で、94は古寛永銭、95は新寛永銭の不旧

手であろう。

図示できなかった遺物の中には、94以外に肥前磁器三角高台皿（推定生産年代1650年代～1670年代）、瀬戸・美濃陶器天目茶碗といった17世紀代、肥前磁器厚手碗・筒茶碗・染付輪禿皿・志戸呂陶器由右衛門徳利といった18世紀代、瀬戸・美濃磁器コバルト染付小坏・土瓶、瀬戸・美濃磁器型紙絵付碗・徳利、在地産と思われる瓦質土器のアンカといった近代の製品もみられる。そのほか在地産瓦質土器平底焙烙、常滑産大甕などもみられる。以上が主な出土遺物である。

（梶原 勝）

第13表 神明後遺跡第18地点 出土遺物観察表（1）縄文土器

〈 〉は残存値，備考欄の巻頭番号は巻頭図版番号，写番号は写真図版番号

| 図版番号 | 掲載番号 | 遺構名    | 出土状況 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 遺存部位  | 器形   | 地 文      | 文 様 要 素                                                 | 分類(細分) |     |    | 型 式          | 備 考            |
|------|------|--------|------|--------|--------|--------|-------|------|----------|---------------------------------------------------------|--------|-----|----|--------------|----------------|
|      |      |        |      |        |        |        |       |      |          |                                                         | 6期区分   | 群   | 類  |              |                |
| 33   | 1    | 8号住居跡  | 炉体   | 不明     | 不明     | <11.8> | 胴部破片  | 深鉢   | 縄文       | 幅広い口縁部無文帯、胴部を隆帯区画                                       | 中期     | V   | 3  | 加曾利EⅠ新       | 写7             |
|      | 2    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <4.1>  | 胴部破片  | 深鉢   | 沈線文      | 斜位の沈線が短い距離で引かれる                                         | 前期     | Ⅱ   | -  | 諸磯b          | 写7             |
|      | 3    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <23.2> | 下部残存  | 深鉢   | 集合沈線+刺突文 | 幅広い口縁部無文帯、胴部を隆帯により縦位区画、胴上部は集合沈線区画+刺突文。胴下部は縦位の集合沈線文      | 中期     | Ⅲ   | ?  | 中期前半         | 粗製土器か<br>写7    |
|      | 4    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <7.6>  | 口縁部破片 | 深鉢   | 縄文       | 沈線+微隆起線による半截長楕円区画                                       | 中期     | V   | 3  | 加曾利EⅠ新       | 写7             |
|      | 5    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <10.2> | 胴部破片  | 深鉢   | 縄文       | 3本一組の沈線による縦位区画、2本一組の沈線による波状懸垂文                          | 中期     | V   | 3? | 加曾利EⅠ新<br>新相 | 写7             |
|      | 6    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <11.2> | 胴部破片  | 深鉢   | 捺糸文      | 頸部に3本一組の沈線を巡らせる                                         | 中期     | Ⅶ   | 2  | 連弧文土器        | 写8             |
|      | 7    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <6.4>  | 口縁部破片 | 深鉢   | 捺糸文      | 口縁直下に単沈線の弧状文                                            | 中期     | Ⅶ   | 2  | 連弧文土器        | 写8             |
|      | 8    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <5.7>  | 胴部破片  | 壺形土器 | 縄文       | 頸部に2列の列点と細めの沈線を巡らせる                                     | 中期     | ?   | ?  | 不明           | 写8             |
|      | 9    | 9号住居跡  | 覆土   | 不明     | 不明     | <7.8>  | 胴部破片  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 幅広い口縁部無文帯、胴部を2～3本一組の細沈線により区画                            | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利式          | 写8             |
|      | 10   | 9号住居跡  | 伏甕   | 16.3   | 不明     | <12.1> | 上部残存  | 深鉢   | 縄文       | 口縁部無文帯、頸部に隆帯による波状裝飾、胴部に隆帯による緩やかな波状懸垂文                   | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利Ⅱ          | 巻頭2<br>写5・8    |
|      | 11   | 10号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <8.5>  | 胴部破片  | 深鉢   | 条線による流水文 | -                                                       | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利式          | 写8             |
| 34   | 12   | 11号住居跡 | 覆土   | 不明     | 7.2    | <13.0> | 下部残存  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 2本一組の沈線による縦位区画                                          | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅠ新相  | 写8             |
|      | 13   | 11号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <10.1> | 胴部破片  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 隆帯による波状懸垂文+弧状(?)文                                       | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利Ⅱ～Ⅲ        | 写8             |
|      | 14   | 11号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <11.1> | 口縁部破片 | 深鉢   | 不明       | 幅広い口縁部無文帯                                               | 中期     | ?   | ?  | 中期後半?        | 写8             |
|      | 15   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | (19.6) | <25.2> | 上部残存  | 深鉢   | 縄文       | 口縁直下に2本一組の沈線を巡らせる胴部は2本一組の沈線による縦位区画 沈線間には狭い磨消帯となる        | 中期     | V   | 4  | 加曾利EⅡ        | 写9             |
|      | 16   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <20.0> | 上部残存  | 深鉢   | 縄文       | 口縁部に沈線+微隆起線による渦巻文+窓枠状区画。胴部区画なし                          | 中期     | V   | 4  | 加曾利EⅡ        | 写8             |
|      | 17   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 11.7   | <6.1>  | 底部破片  | 深鉢   | 捺糸文      | 沈線による弧状または渦巻状の加飾                                        | 中期?    | ?   | ?  | 不明           | 写9             |
|      | 18   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <4.3>  | 胴部破片  | 深鉢   | 捺糸文      | 隆帯による円形の単位文                                             | 中期     | V   | ?  | 加曾利EⅠ～Ⅱ      | 写9             |
|      | 19   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <6.6>  | 胴部破片  | 深鉢   | 捺糸文      | 隆帯によるハシゴ状の単位文                                           | 中期     | V   | ?  | 加曾利EⅠ～Ⅱ      | 写9             |
|      | 20   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <6.0>  | 胴部破片  | 深鉢   | 列点       | 沈線による弧状または渦巻状区画                                         | 中期     | Ⅵ   | 2  | 加曾利EⅣ        | 写9             |
| 35   | 21   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <10.2> | 上部残存  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 口縁部に沈線による渦巻文+窓枠状区画。胴部は4本一組の沈線で縦位区画し、2本一組の沈線による波状懸垂文を配する | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅡ    | 写9             |
|      | 22   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 40.4   | <30.6> | 準完形   | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 口縁直下に2本一組の沈線を巡らせる胴部区画なし                                 | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅡ    | 写9             |
|      | 23   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 40.1   | <14.9> | 上部残存  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 口縁直下に2本一組の沈線を巡らせる胴部は3本一組の沈線により縦位区画                      | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅡ    | 写9             |
|      | 24   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 6.0    | <15.1> | 下部残存  | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 胴部区画なし                                                  | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅠ新?  | 写9             |
|      | 25   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <11.8> | 口縁部破片 | 深鉢   | 捺糸文      | 口縁直下に隆帯の痕跡あり                                            | 中期     | V?  | ?  | 加曾利E?        | 粗製土器か<br>写10   |
| 36   | 26   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <6.5>  | 口縁部破片 | 深鉢   | 櫛歯状条線    | 口縁部文様帯を消失。上端が逆U字状に連結する沈線により、胴部を条線帯と磨消帯とに縦位区画            | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅡ新   | 写10            |
|      | 27   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <9.1>  | 口縁部破片 | 深鉢   | 条線による流水文 | 沈線により口縁部無文帯を区画する                                        | 中期     | Ⅷ   | -  | 曾利系・加曾利EⅡ～Ⅲ  | 写10            |
|      | 28   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <10.2> | 胴部破片  | 深鉢   | 連続刺突文?   | 櫛状工具をやや押し引き気味に用いた刺突文が斜位～横位に施される                         | 中期     | ?   | ?  | 不明           | 粗製土器か<br>写10   |
|      | 29   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <4.5>  | 把手    | 浅鉢   | 不明       | 把手下に沈線による横長の渦巻文                                         | 後期     | Ⅱ～Ⅲ | -  | 称名寺～堀之内      | 写10            |
|      | 30   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <10.4> | 胴部破片  | 深鉢?  | 不明       | 隆帯による鎖状裝飾、沈線を伴う橋状把手                                     | 後期     | Ⅲ   | ?  | 堀之内          | 写10            |
|      | 31   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <5.5>  | 胴部破片  | 壺形土器 | 不明       | 頸部に沈線+微隆起線を巡らせ、小突起が付く                                   | 後期     | Ⅲ～Ⅳ | -  | 堀之内～加曾利B     | 写10            |
|      | 32   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <4.8>  | 胴部破片  | 壺形土器 | 縄文       | 頸に孔が開く。胴部に沈線・結節沈線による渦巻文等                                | 後～晩期   | -   | -  | 堀之内式以降       | 胎土に雲母を少量含む／写10 |
|      | 33   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <6.7>  | 口縁部破片 | 浅鉢?  | 不明       | 口唇に沈線を巡らせる。表面は無文?                                       | 後期     | Ⅲ～Ⅳ | -  | 堀之内～加曾利B     | 写10            |
|      | 34   | 12号住居跡 | 覆土   | 不明     | 不明     | <2.8>  | 口縁部破片 | 深鉢   | 不明       | 内削ぎの平らな口唇に、捺糸文が施される。表面にナデ調整                             | 晩期?    | -   | -  | 不明           | 弥生土器の可能性あり／写10 |

第14表 神明後遺跡第18地点 出土遺物観察表（2）縄文土製品

備考欄の写番号は写真図版番号

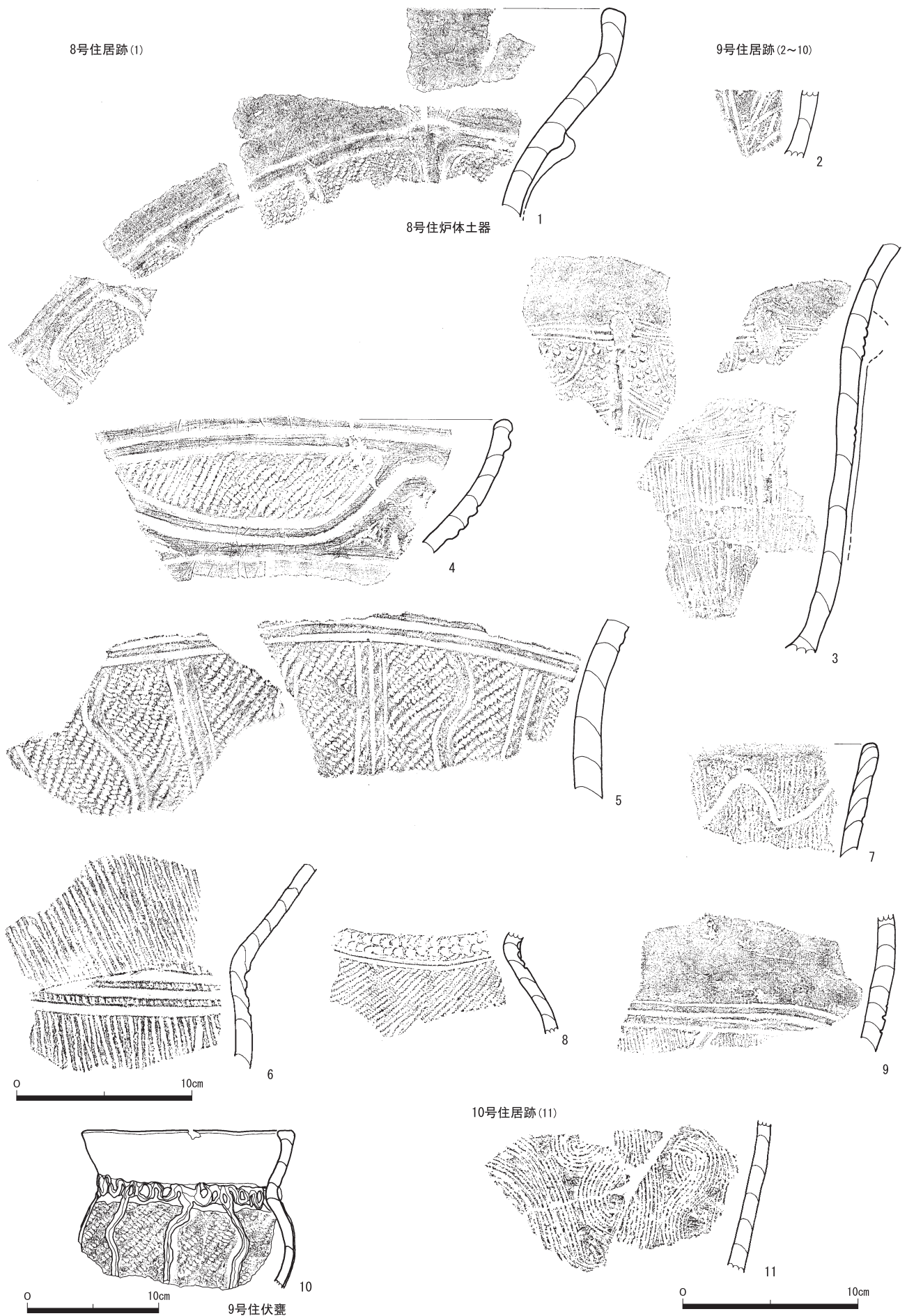
| 図版<br>番号 | 掲載<br>番号 | 遺 構 名  | 分 類  | 直径<br>(cm) | 厚さ<br>(cm) | 質量<br>(g) | 素材土器の型式 | 残存度(%) | 縁辺スレ | 備 考            |
|----------|----------|--------|------|------------|------------|-----------|---------|--------|------|----------------|
| 36       | 35       | 12号住居跡 | 土製円板 | 3.0        | 0.7        | 7.8       | 加曾利EⅡ   | 100    | 一部   | 写10            |
|          | 36       | 12号住居跡 | 土器片鏺 | 4.5        | 1.0        | 18.2      | 中期      | 100    | 一部   | 挟入＝1対／写10      |
|          | 37       | 12号住居跡 | 土製円板 | 5.3        | 0.9        | 29.6      | 加曾利EⅡ   | 100    | 一部   | 写10            |
|          | 38       | 12号住居跡 | 土製円板 | 4.5        | 1.0        | 25.2      | 中期      | 100    | ナシ   | 写10            |
|          | 39       | 12号住居跡 | 土製円板 | 4.3        | 1.1        | 22.4      | 加曾利EⅡ   | 100    | 90%  | 写10            |
|          | 40       | 12号住居跡 | 土製円板 | 3.3        | 1.3        | 18.0      | 中期      | 100    | 90%  | 写10            |
|          | 41       | 12号住居跡 | 土製円板 | 3.8        | 1.1        | 15.4      | 曾利式     | 100    | 一部   | 写10            |
|          | 42       | 12号住居跡 | 土製円板 | 4.1        | 0.8        | 13.9      | 中期      | 100    | 100% | 写10            |
|          | 43       | 土坑4    | 土製円板 | 3.0        | 1.0        | 11.4      | 中期      | 100    | 100% | 10号住居跡に帰属か／写10 |
|          | 44       | P1     | 土器片鏺 | 6.7        | 1.0        | 50.7      | 中期後半    | 80     | 30%  | 挟入＝1カ所／写10     |
|          | 45       | 4トレンチ  | 土器片鏺 | 3.2        | 1.0        | 11.2      | 曾利式     | 100    | 90%  | 挟入＝1対／写10      |

第15表 神明後遺跡第18地点 出土遺物観察表（3）縄文石器

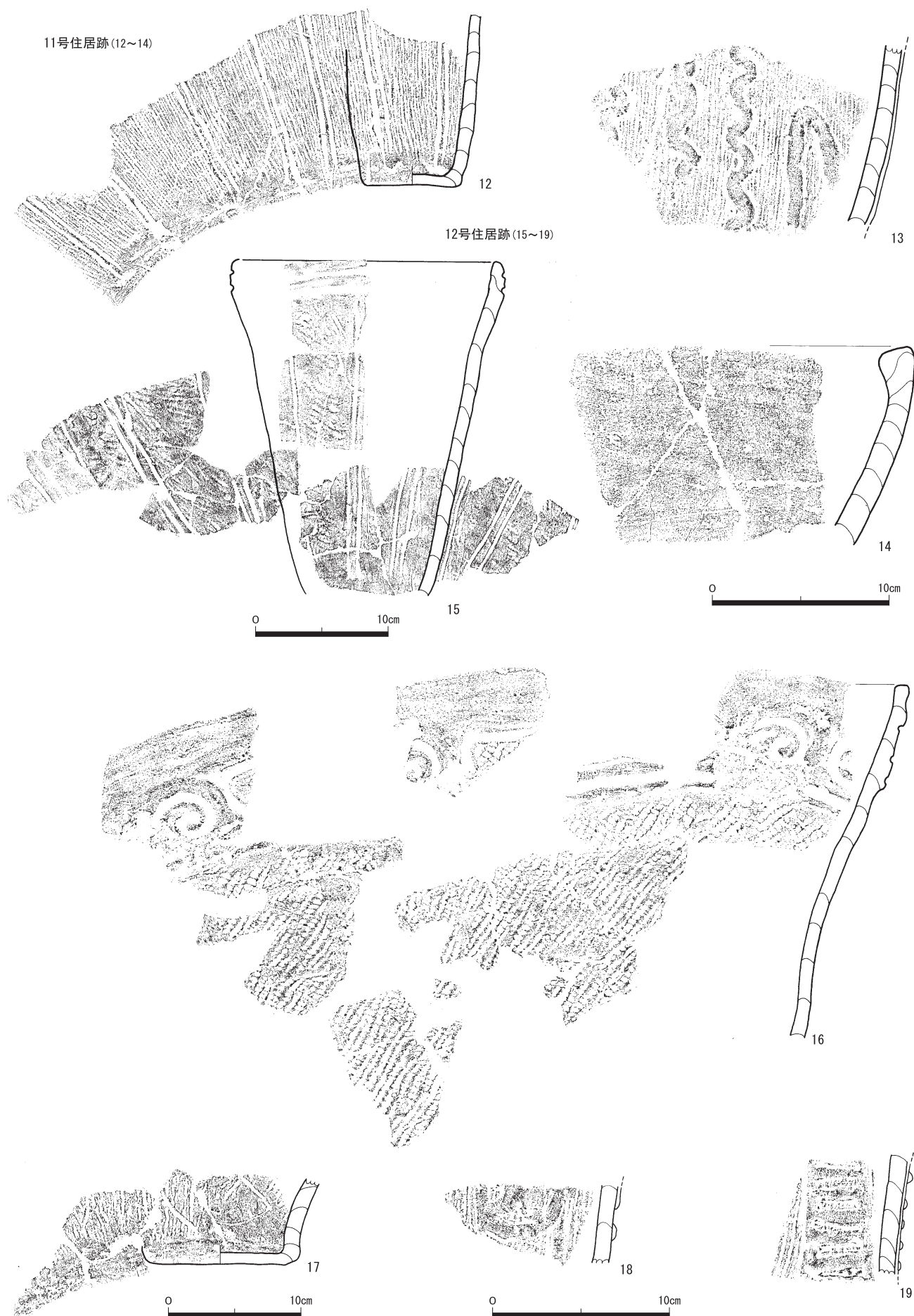
〈 〉は残存値，備考欄の巻頭番号は巻頭図版番号，写番号は写真図版番号

| 図版<br>番号 | 掲載<br>番号 | 遺 構 名  | 分 類     |    |    | 石 材     | 遺存<br>部位 | 長／高<br>(cm) | 幅<br>(cm) | 厚さ<br>(cm) | 重量<br>(g) | 備 考                           |
|----------|----------|--------|---------|----|----|---------|----------|-------------|-----------|------------|-----------|-------------------------------|
|          |          |        | 器 種     | 群  | 類  |         |          |             |           |            |           |                               |
| 37       | 46       | 12号住居跡 | 石鏺      | I  | －  | 黒曜石     | A        | 1.7         | 1.1       | 0.5        | 0.5       | やや歪な形状。未製品か／写10               |
|          | 47       | 12号住居跡 | 石鏺      | I  | －  | チャート    | A        | 1.8         | 1.4       | 0.5        | 0.9       | 未製品か／写10                      |
|          | 48       | 12号住居跡 | 石鏺      | I  | －  | 黒曜石     | A        | 2.0         | 1.5       | 0.3        | 0.5       | 写10                           |
|          | 49       | 12号住居跡 | 石鏺      | I  | －  | 黒曜石     | A        | 2.1         | 1.5       | 0.3        | 0.6       | やや歪な形状。未製品か／写10               |
|          | 50       | 土坑4    | 石鏺      | ?  | －  | 黒曜石     | C1       | <1.4>       | <1.0>     | <0.4>      | <0.3>     | 写10                           |
|          | 51       | 9号住居跡  | 剥片類     | I  | －  | チャート    | A        | 2.4         | 1.5       | 0.5        | 1.0       | 石鏺未製品の可能性あり／写10               |
|          | 52       | 11号住居跡 | 剥片類     | I  | －  | チャート    | A        | 5.1         | 3.7       | 1.5        | 23.2      | 写10                           |
| 38       | 53       | 2トレンチ  | スクレーパー  | I  | －  | チャート    | D        | 3.4         | <3.9>     | 1.0        | <12.3>    | 写11                           |
|          | 54       | 12号住居跡 | スクレーパー  | I  | －  | チャート    | A        | 5.6         | 3.9       | 1.7        | 26.4      | 掻器／写11                        |
|          | 55       | 12号住居跡 | スクレーパー  | I  | －  | 石畳片岩?   | A        | 5.0         | 7.6       | 0.9        | 31.0      | 削器／写11                        |
|          | 56       | 12号住居跡 | スクレーパー  | I  | －  | 砂岩      | A        | 3.4         | 5.5       | 0.8        | 16.5      | 削器／写11                        |
|          | 57       | 12号住居跡 | 剥片類     | I  | －  | 緑泥片岩    | D        | <4.9>       | <7.5>     | <0.6>      | <26.2>    | 写11                           |
|          | 58       | 12号住居跡 | スクレーパー  | I  | －  | ホルンフェルス | A        | 5.6         | 6.6       | 1.5        | 58.9      | 写11                           |
|          | 59       | 12号住居跡 | スクレーパー  | I  | －  | ホルンフェルス | A        | 8.9         | 4.6       | 1.2        | 53.5      | 写11                           |
|          | 60       | 12号住居跡 | スタンプ形石器 | I  | －  | 閃緑岩     | A        | 10.1        | 7.9       | 4.0        | 354.0     | 磨石または砥石との複合石器か／写11            |
|          | 61       | 11号住居跡 | 打製石斧    | I  | 3  | ホルンフェルス | B1       | <11.2>      | <6.5>     | 2.5        | <222.6>   | 写11                           |
|          | 62       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 6  | 砂岩      | B1       | <9.3>       | <6.3>     | <3.3>      | <227.2>   | 加工前に被熱／写11                    |
|          | 63       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 3  | 緑泥片岩    | B1       | 13.0        | <8.9>     | 2.4        | <251.0>   | 石皿＋凹石からの転用品／写11               |
|          | 64       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 5  | 凝灰岩?    | B1       | <9.7>       | <7.1>     | <2.7>      | <216.2>   | 写11                           |
| 39       | 65       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 5  | 砂岩      | A        | 8.5         | 4.6       | 1.4        | 57.6      | 写11                           |
|          | 66       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 3  | ホルンフェルス | A        | 8.9         | 4.6       | 1.2        | 53.5      | 写11                           |
|          | 67       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 2  | 結晶片岩    | A        | 6.7         | 4.4       | 1.6        | 32.7      | 写11                           |
|          | 68       | 12号住居跡 | 打製石斧    | ?  | ?  | 砂岩      | C2       | <5.5>       | <5.2>     | <1.3>      | <42.9>    | 写11                           |
|          | 69       | 12号住居跡 | 打製石斧    | ?  | ?  | ホルンフェルス | C1       | <4.0>       | <4.7>     | <1.6>      | <26.7>    | 写11                           |
|          | 70       | 12号住居跡 | 打製石斧    | ?  | ?  | 砂岩      | C1       | <4.7>       | <3.1>     | <1.5>      | <23.6>    | 写11                           |
|          | 71       | 12号住居跡 | 打製石斧    | ?  | ?  | ホルンフェルス | C3       | <3.4>       | <5.9>     | <1.4>      | <21.9>    | 写11                           |
|          | 72       | 12号住居跡 | 磨製石斧    | I? | －  | 砂岩      | C3       | <5.5>       | <5.0>     | <2.0>      | <60.0>    | 写11                           |
|          | 73       | 12号住居跡 | 打製石斧    | I  | 3? | ホルンフェルス | C3       | <4.8>       | 4.8       | <1.0>      | <25.1>    | 写11                           |
|          | 74       | 2トレンチ  | 打製石斧    | I  | ?  | 砂岩      | C3       | <6.3>       | <5.7>     | <2.3>      | <94.3>    | 写11                           |
|          | 75       | 12号住居跡 | 磨製石斧    | I  | －  | 緑色岩?    | B2       | <10.0>      | 6.2       | 3.6        | <399.3>   | 写11                           |
|          | 76       | 12号住居跡 | 磨製石斧    | I  | －  | 結晶片岩    | A?       | 8.5         | 4.3       | 2.2        | 114.0     | 未製品。欠損品の可能性もある／写12            |
|          | 77       | 12号住居跡 | 磨製石斧    | I  | －  | 緑泥片岩    | C1       | <8.2>       | <4.1>     | <2.3>      | <71.6>    | 写12                           |
| 40       | 78       | 9号住居跡  | 敲打器     | II | －  | 砂岩      | A        | 11.8        | 5.6       | 2.8        | 239.6     | 写12                           |
|          | 79       | 12号住居跡 | 砥石      | －  | －  | 砂岩      | A?       | 9.2         | 6.6       | 2.4        | 221.1     | 敲打器との複合品か?磨製石斧未製品の可能性もある／写12  |
|          | 80       | 12号住居跡 | 磨石      | II | 2  | 砂岩      | A        | 9.3         | 4.5       | 2.7        | 118.0     | 被熱により表面の風化が著しい／写12            |
|          | 81       | 12号住居跡 | 敲打器     | II | －  | 緑色片岩    | A        | 14.2        | 6.2       | 2.5        | 306.4     | 写12                           |
|          | 82       | 12号住居跡 | 敲打器     | I  | －  | 砂岩      | B2       | <9.4>       | 5.5       | 3.0        | 199.2     | 両端使用か／写12                     |
|          | 83       | 12号住居跡 | 敲打器     | II | －  | 閃緑岩     | A        | 9.6         | 7.6       | 4.0        | 442.9     | 磨石からの転用品／写12                  |
|          | 84       | 土坑4    | 敲打器     | II | －  | ホルンフェルス | A        | 8.0         | 3.1       | 2.75       | 99.5      | 側縁に顕著なスレあり。磨石または砥石との複合石器か／写12 |
|          | 85       | 12号住居跡 | 石皿      | II | 1  | 閃緑岩     | B        | 17.9        | <16.5>    | 4.9        | <2340.3>  | 写12                           |
|          | 86       | 12号住居跡 | 磨製石斧    | II | －  | 凝灰岩?    | A        | 2.2         | 1.6       | 0.6        | 3.1       | 超小型の精製品／写12                   |
|          | 87       | 12号住居跡 | その他     | －  | －  | 軟玉      | A        | 2.0         | 1.2       | 0.6        | 1.9       | 垂飾り／巻頭4、写6・12                 |
|          | 88       | 12号住居跡 | その他     | －  | －  | 軟玉      | A        | 2.1         | 1.2       | 0.7        | 2.3       | 垂飾り／巻頭4、写6・12                 |
|          | 89       | 12号住居跡 | その他     | －  | －  | 軟玉      | A        | 2.2         | 1.2       | 0.8        | 2.1       | 垂飾り／巻頭4、写6・12                 |
| －        | 90       | 12号住居跡 | その他     | －  | －  | ?       | A        | 0.3         | 0.3       | 0.2        | ×         | ビーズ玉状の製品「黒色小玉」                |





第33図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (1) 縄文土器① (1/3・1/4)



第34図 神明後遺跡第18地点 出土遺物(2) 縄文土器②(1/3・1/4)



12号住居跡(20~24)



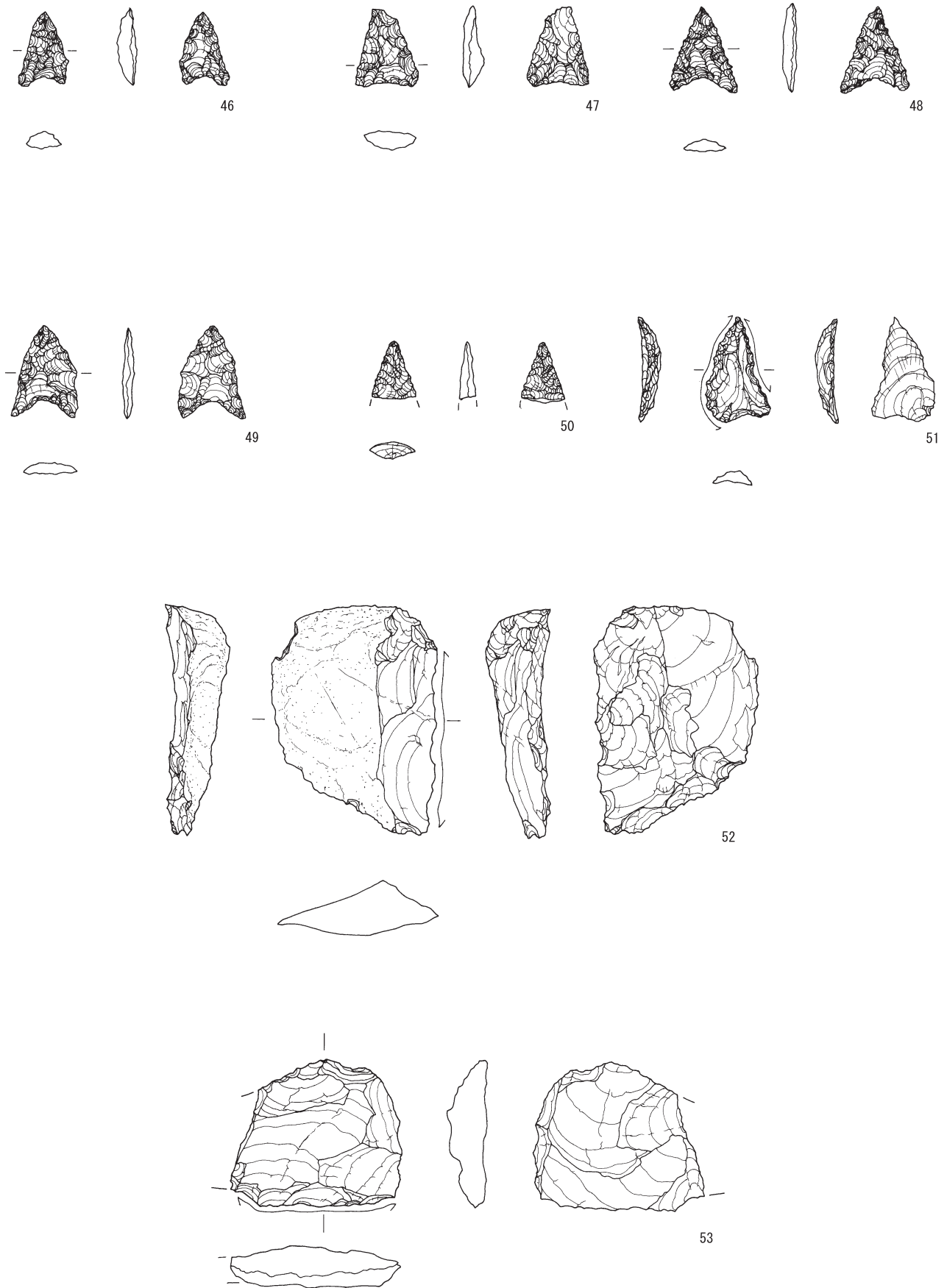
第35図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (3) 縄文土器③ (1/3・1/4)



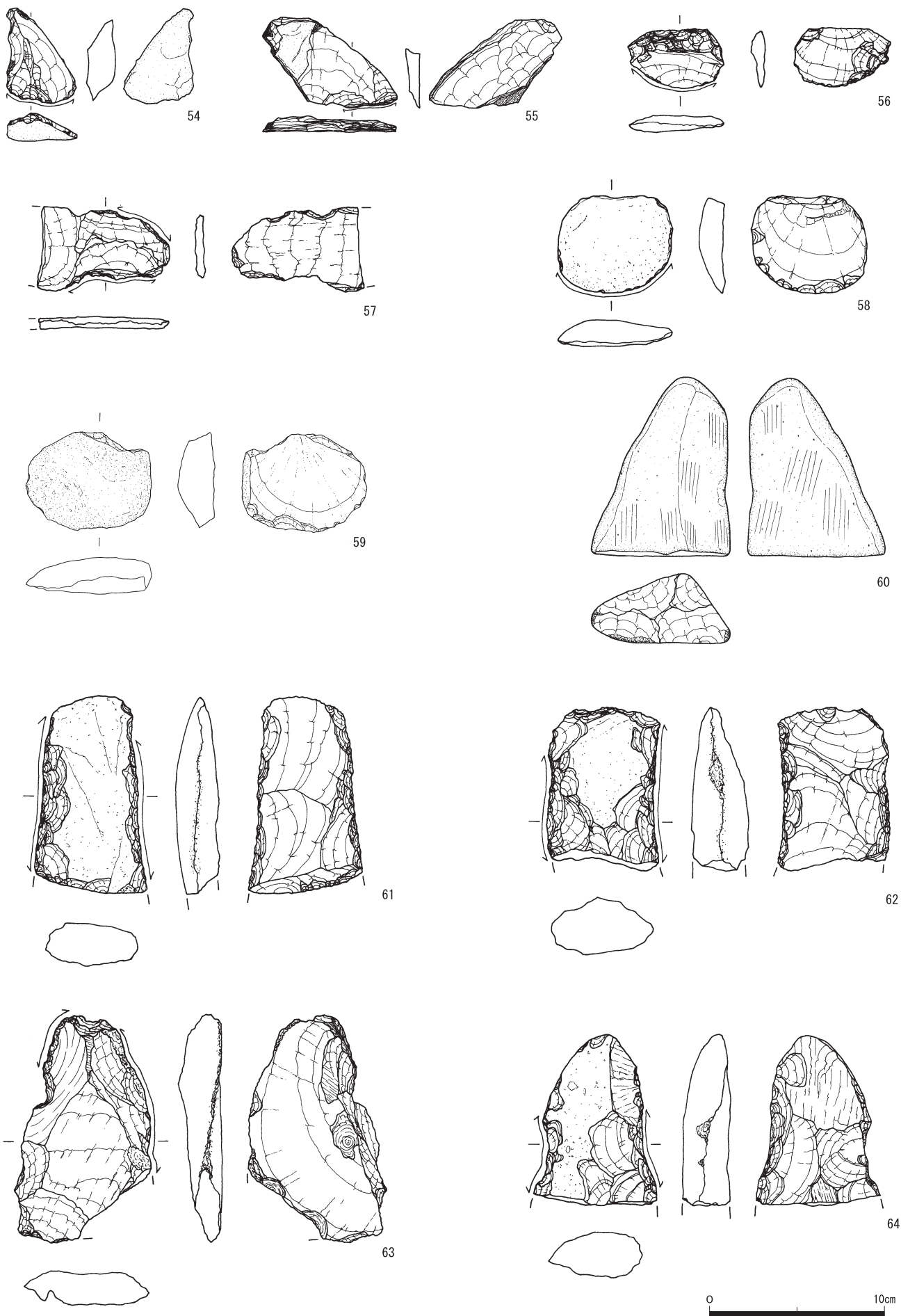
12号住居跡(25~42)



第36図 神明後遺跡第18地点 出土遺物(4) 縄文土器④・土製品(1/3)

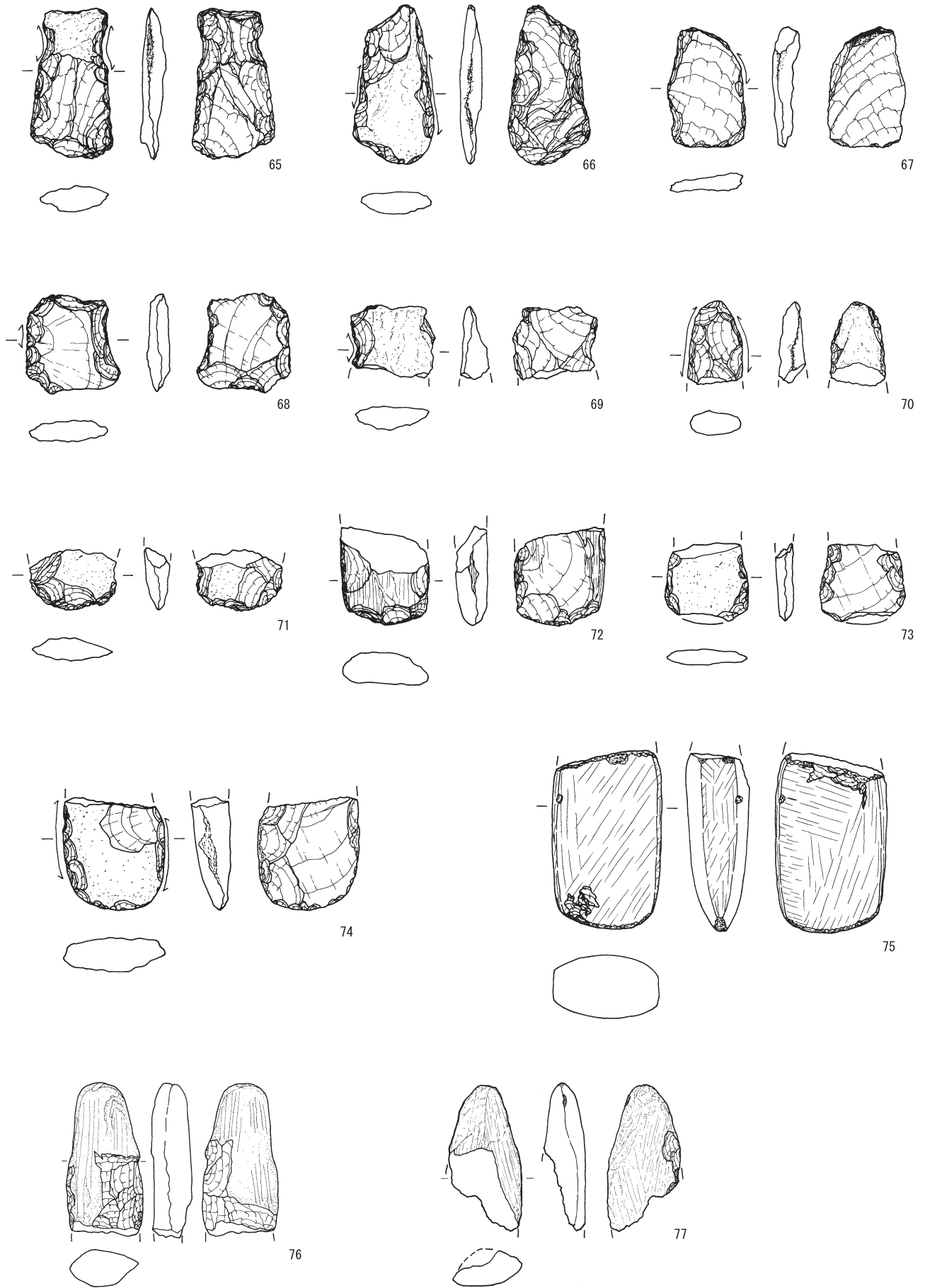


第37図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (5) 縄文石器① (4/5)

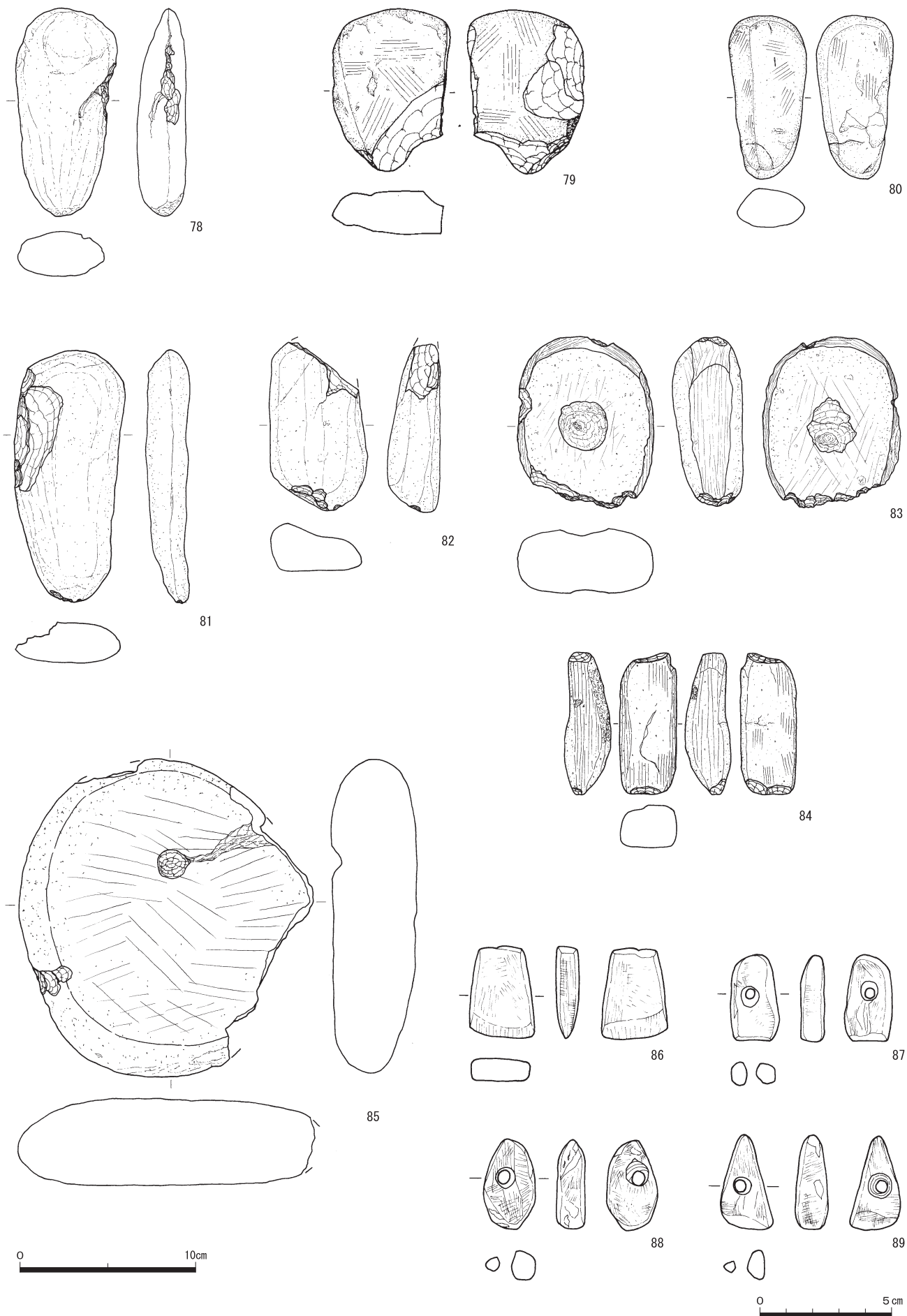


第38図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (6) 縄文石器② (1/3)





第39図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (7) 縄文石器③ (1/3)

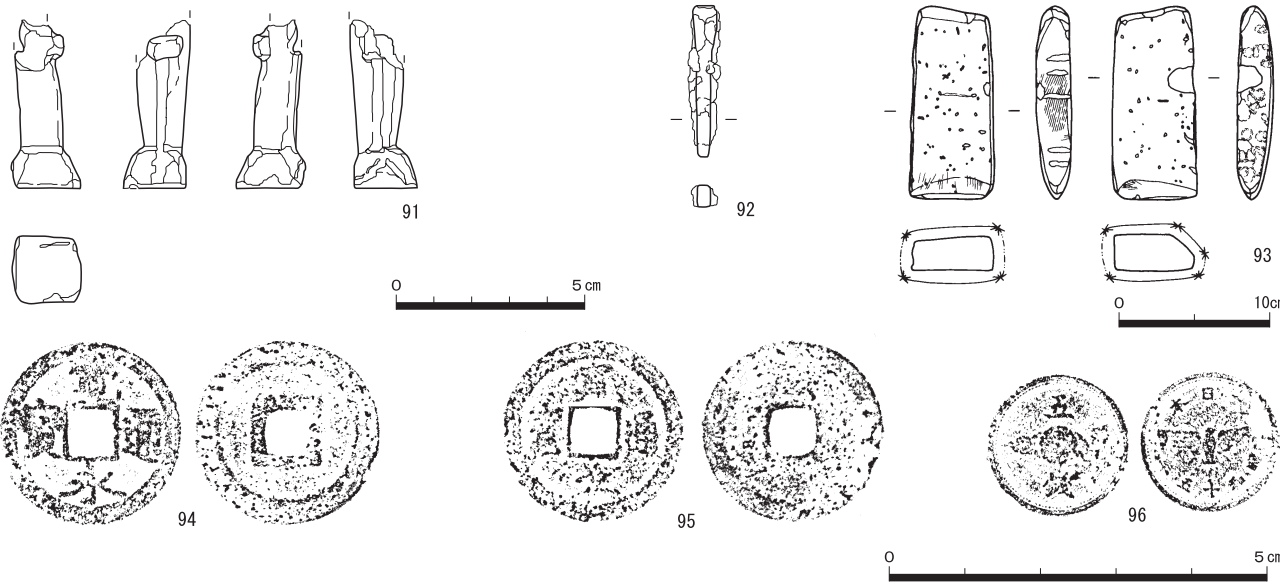


第40図 神明後遺跡第18地点 出土遺物 (8) 縄文石器④ (1/2・1/3)

第16表 神明後遺跡第18地点 出土遺物観察表（4）中世以降 土製品・石製品・金属製品・銭貨

備考欄の写番号は写真図版番号

| 図版<br>番号 | 掲載<br>番号 | 遺構名<br>出土地点 | 種別・器種           | 単位cm       |            |                | 技法／文様／その他           | 推定生産地 | 推定年代              | 残存／備考     |
|----------|----------|-------------|-----------------|------------|------------|----------------|---------------------|-------|-------------------|-----------|
|          |          |             |                 | 口径         | 底径         | 器高             |                     |       |                   |           |
| 41       | 91       | 土坑4         | 土製品・箱庭道具<br>鳥居  | 幅<br>(1.9) | 厚<br>(1.8) | (4.4)          | 型打成形・前後合わせ、縦位ヘラケズリ  | 江戸近郊？ | 近世                | 1/2以下／写12 |
|          | 92       | 土坑4         | 金属製品・和釘         | 長<br>6.2   | 幅<br>3.3   | 厚<br>1.4       | 鍛造                  | 不明    | 不明                | 完形／写12    |
|          | 93       | 12号住居跡      | 石製品・砥石          | 長<br>7.7   | 幅<br>3.3   | 厚<br>1.4       | 左側面にケズリ痕、右側面に敲打痕と磨面 | 上州    | 不明                | 完形／写12    |
|          | 94       | H6          | 銭貨・寛永通宝<br>古寛永銭 | 径<br>2.4   | 厚<br>0.1   | 穿孔径<br>0.6×0.6 |                     | 江戸？   | 寛永13(1636)年初<br>鋳 | 完形／写12    |
|          | 95       | H5          | 銭貨・寛永通宝<br>不旧手  | 径<br>2.4   | 厚<br>0.1   | 穿孔径<br>0.6×0.6 |                     | 江戸？   | 享保11(1726)年初<br>鋳 | 完形／写12    |
|          | 96       | 土坑4         | 銭貨・アルミ五銭        | 径<br>1.9   | 厚<br>0.2   | -              |                     | 不明    | 昭和15(1940)年       | 完形／写12    |



第41図 神明後遺跡第18地点 出土遺物（9）中世以降 土製品（1/2）・石製品・金属製品（1/5）・銭貨（1/1）



附編 自然科学分析

神明後遺跡 第18地点

はじめに

神明後遺跡は、さかい川右岸の標高12～16mの、急斜面を形成している台地上に立地する。本遺跡では発掘調査により、縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代～平安時代の住居跡、中世の遺構などが検出されている。今回の分析調査では、立川ローム層を掘り込んで構築されている時代時期不明の溝から採取した土壌を対象にテフラ分析を実施し、年代資料を得る。なお、この堀の延長線上に江川南遺跡の堀跡が検出されており、関連性が考えられている。

(1) 試料

試料は、立川ローム層を掘り込んで作られている溝から採取した土壌11点（試料番号6～16）である。なお、試料採取地点は18地点の2トレンチである。

(2) 分析方法

試料約20 gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型

と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつき目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

(3) 結果

分析結果を第17表、写真図版13に示す。スコリアはNo.6、7、9～11に極めて微量認められるのみである。スコリアの特徴は、各試料とも、最大径1 mm前後、黒色で発泡不良であり、No.9と11には褐色のスコリアも含まれる。火山ガラスは、いずれの試料にも無色透明のバブル型が微量含まれる。No.14～16には無色透明の軽石型も混在する。軽石は、No.10に少量、No.6、7に微量、No.8、9、11に極めて微量含まれるほかは、全く認められない。いずれの試料も軽石の特徴は同様であり、最大径は約1.0mm、灰褐色を呈し、発泡はやや不良である。斜方輝石の斑晶を包有するものも認められた。

(4) 考察

検出されたテフラの碎屑物のうち、軽石は、その特徴と当社における標準試料との比較から、平安時代の天仁元年（1108年）に浅間火山より噴出した浅間Bテフラ（As-B：新井，1979）に由来する。今回の分析

第17表 神明後遺跡のテフラ分析結果

| 層名 | 試料<br>番号 | スコリア |            |      | 火山ガラス |              | 軽石  |              |      | 由来する<br>テフラ   |
|----|----------|------|------------|------|-------|--------------|-----|--------------|------|---------------|
|    |          | 量    | 色調・発泡度     | 最大粒径 | 量     | 色調・形態        | 量   | 色調・発泡度       | 最大粒径 |               |
| 1  | 6        | (+)  | B・b        | 0.8  | +     | cl・bw        | +   | GBr・sb (opx) | 1.0  | As-B, 新期富士テフラ |
|    | 7        | (+)  | B・b        | 1.0  | +     | cl・bw        | +   | GBr・sb (opx) | 1.0  |               |
| 2  | 8        | —    |            |      | +     | cl・bw        | (+) | GBr・sb (opx) | 1.0  |               |
|    | 9        | (+)  | B・b, Br・sb | 2.0  | +     | cl・bw        | (+) | GBr・sb (opx) | 0.8  |               |
|    | 10       | (+)  | B・b        | 1.2  | +     | cl・bw        | ++  | GBr・sb (opx) | 1.0  |               |
| 4  | 11       | (+)  | B・b, Br・sb | 1.2  | +     | cl・bw        | (+) | GBr・sb (opx) | 1.0  |               |
|    | 12       | —    |            |      | (+)   | cl・bw        | —   |              |      |               |
|    | 13       | (+)  | B・b        | 1.2  | (+)   | cl・bw        | —   |              |      |               |
| 5  | 14       | —    |            |      | +     | cl・bw, cl・pm | —   |              |      | AT, UG        |
|    | 15       | —    |            |      | +     | cl・bw, cl・pm | —   |              |      |               |
| 6  | 16       | —    |            |      | +     | cl・bw, cl・pm | —   |              |      |               |

凡例 —:含まれない。(+):きわめて微量。+:微量。++:少量。+++ :中量。++++:多量。  
B:黒色。G:灰色。Br:褐色。GB:灰黒色。GBr:灰褐色。R:赤色。W:白色。  
g:良好。sg:やや良好。sb:やや不良。b:不良。最大粒径はmm。(opx):斜方輝石斑晶包有。  
cl:無色透明。br:褐色。bw:バブル型。md:中間型。pm:軽石型。

結果では、A s - B の軽石が特に濃集する層位を認めることはできないが、相対的にみて覆土層 3 層の No.10 にやや多く含まれる傾向が窺える。特に 3 層の下位の試料には、軽石は全く認められないことで、3 層の軽石の含有量の多さは比較的明瞭である。このことから、覆土層の 3 層は、A s - B の降灰層準に相当する可能性がある。したがって、溝の構築時期は、A s - B 降灰以前である可能性が高い。すなわち現時点で、溝の構築時期は平安時代末よりも古い可能性があるといえる。また、A s - B 降灰時すなわち平安時代末頃には溝はほぼ埋積していた可能性がある。これらの結果は、関連性が考えられている江川南遺跡の堀跡の結果とも、ほぼ整合する。

一方、各層より検出されたスコリアについては、上記の A s - B との層位関係から、完新世の富士山のテフラである新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉（1990）による記載では、富士黒土層中の S - 0 から宝永スコリアの S - 25 まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては、細分されているものもあり、50 枚近くのテフラにより構成されていることになる。今回の覆土層における産状からは、スコリアの由来となるテフラは推定できない。

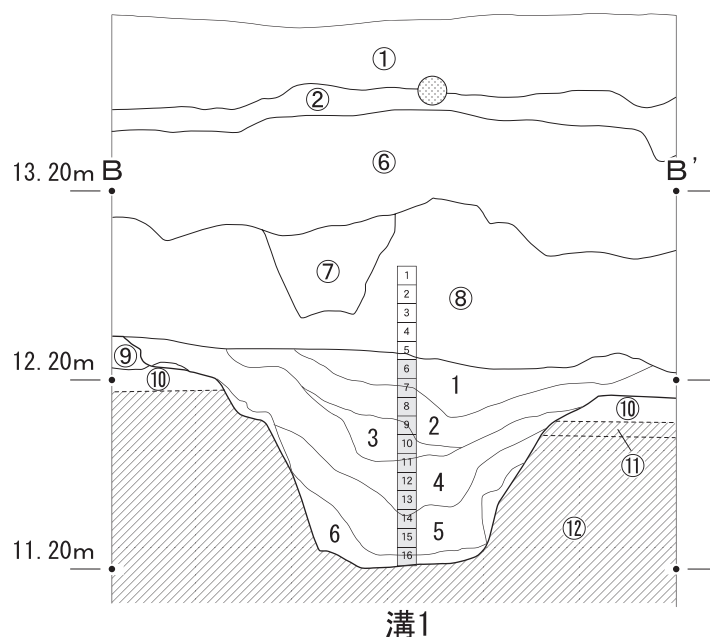
なお、各試料中に認められた微量の火山ガラスは、その形態と周辺事例から、軽石型は立川ローム上部ガ

ラス質テフラ（U G：山崎，1978）に由来し、バブル型の多くは始良 T n 火山灰（A T：町田・新井，1976）に由来すると考えられる。これらのテフラは、いずれもローム層中に降灰層準があることから、覆土中の火山ガラスは、溝周囲の土層から溝内に流れ込んだものであろう。

今回の分析により、現時点では溝の構築年代について平安時代末 12 世紀より以前であると推定できるが、今後周辺における類例の検出とそこにおける他の方法による分析例（例えば放射性炭素年代測定など）などを待って再検討したい。

#### 【引用文献】

- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層．考古学ジャーナル，157，p.41-52.
- 町田 洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰ー始良 Tn 火山灰の発見とその意義ー．科学，46，p.339-347.
- 上杉 陽（1990）富士火山東方地域のテフラ標準柱状図ーその 1：S - 25～Y - 114ー．関東の四紀，16，p.3-28.
- 山崎晴雄（1978）立川断層とその第四紀後期の運動．第四紀研究，16，p.231-246.



第52図 神明後遺跡第18地点 溝 1 サンプル採取位置図





神明後遺跡第18地点 調査区南側



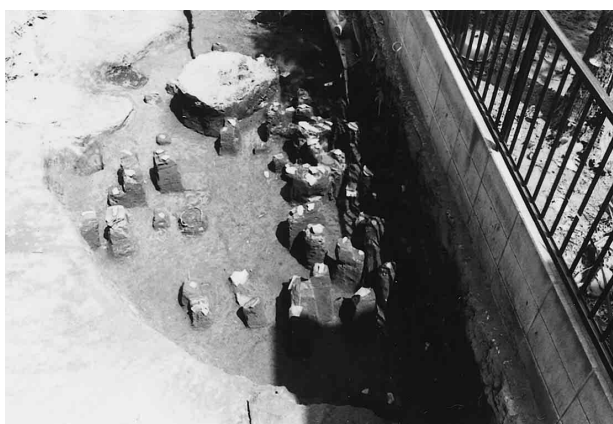
神明後遺跡第18地点 調査風景



神明後遺跡第18地点 8号住居跡・土坑2



神明後遺跡第18地点 8号住居跡 炉



神明後遺跡第18地点 9号住居跡 遺物出土状況



神明後遺跡第18地点 9号住居跡



神明後遺跡第18地点 9号住居跡 伏甕出土状況(Na.10)



神明後遺跡第18地点 10号住居跡、土坑3・4





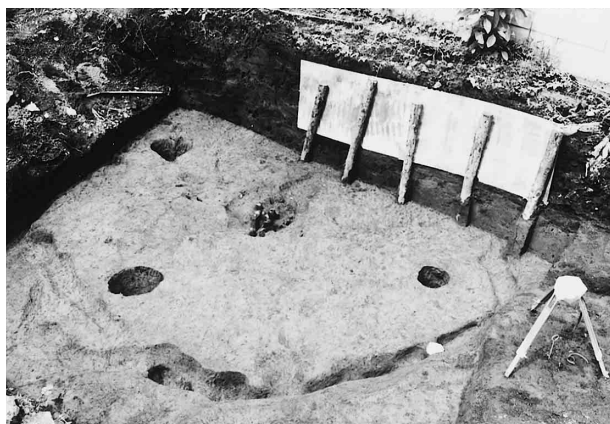
神明後遺跡第18地点 11号住居跡



神明後遺跡第18地点 12号住居跡 遺物出土状況①



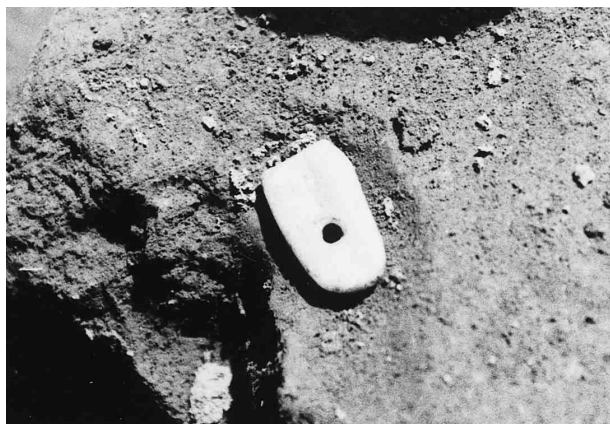
神明後遺跡第18地点 12号住居跡 遺物出土状況②



神明後遺跡第18地点 12号住居跡



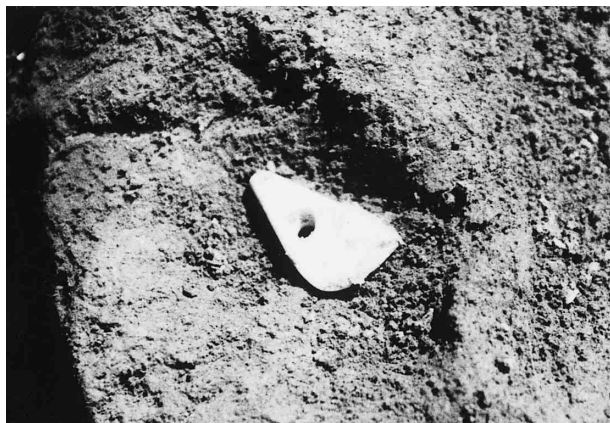
神明後遺跡第18地点 12号住居跡 炉



神明後遺跡第18地点 12号住居跡 垂飾り①(No.87)



神明後遺跡第18地点 12号住居跡 垂飾り②(No.88)



神明後遺跡第18地点 12号住居跡 垂飾り③(No.89)





神明後遺跡第18地点 炉穴 1



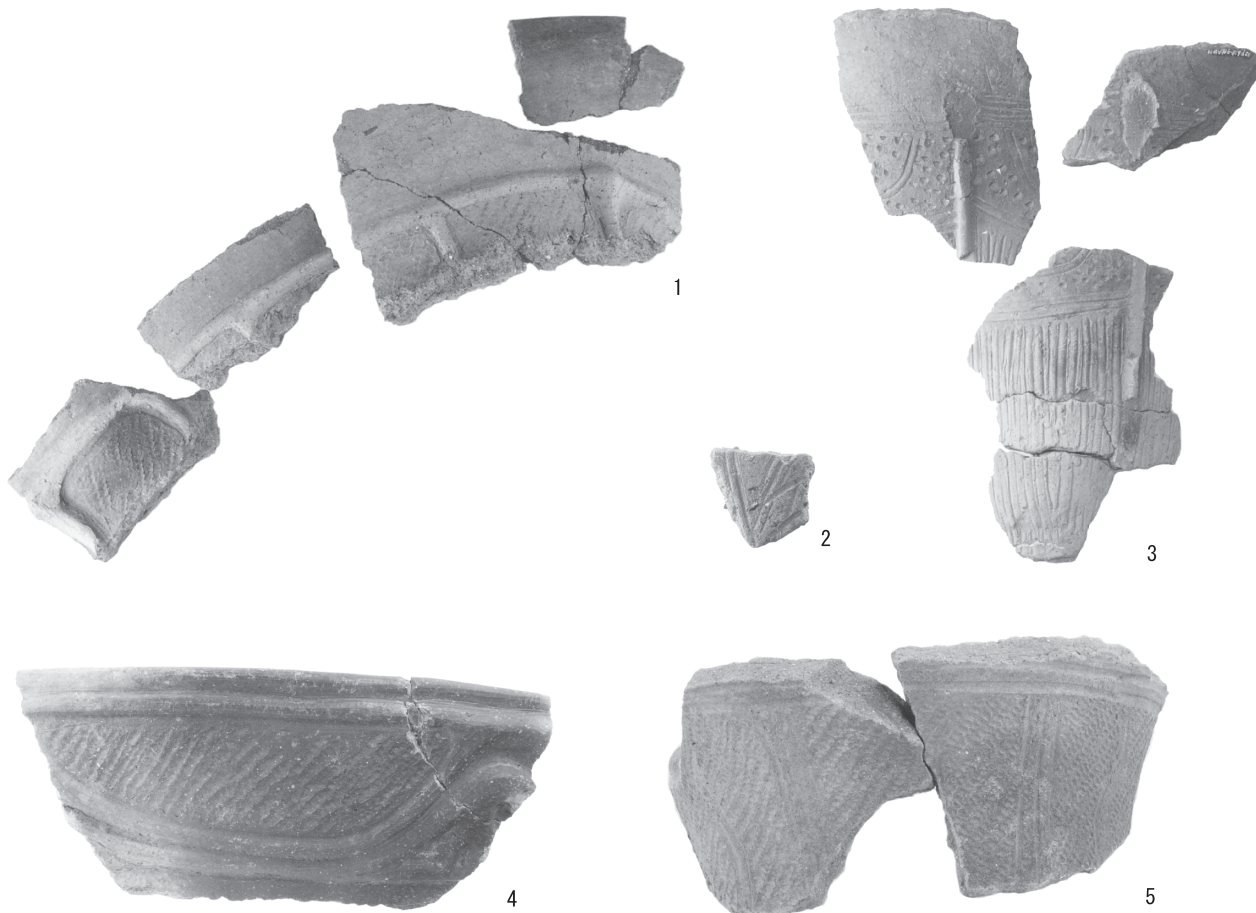
神明後遺跡第18地点 溝 1・P 3 完掘



神明後遺跡第18地点 溝 1 土層断面



神明後遺跡第18地点 溝 2・土坑 1 完掘

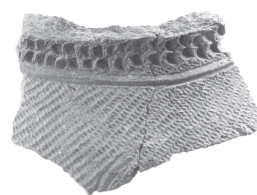




6



7



8



9



10



11



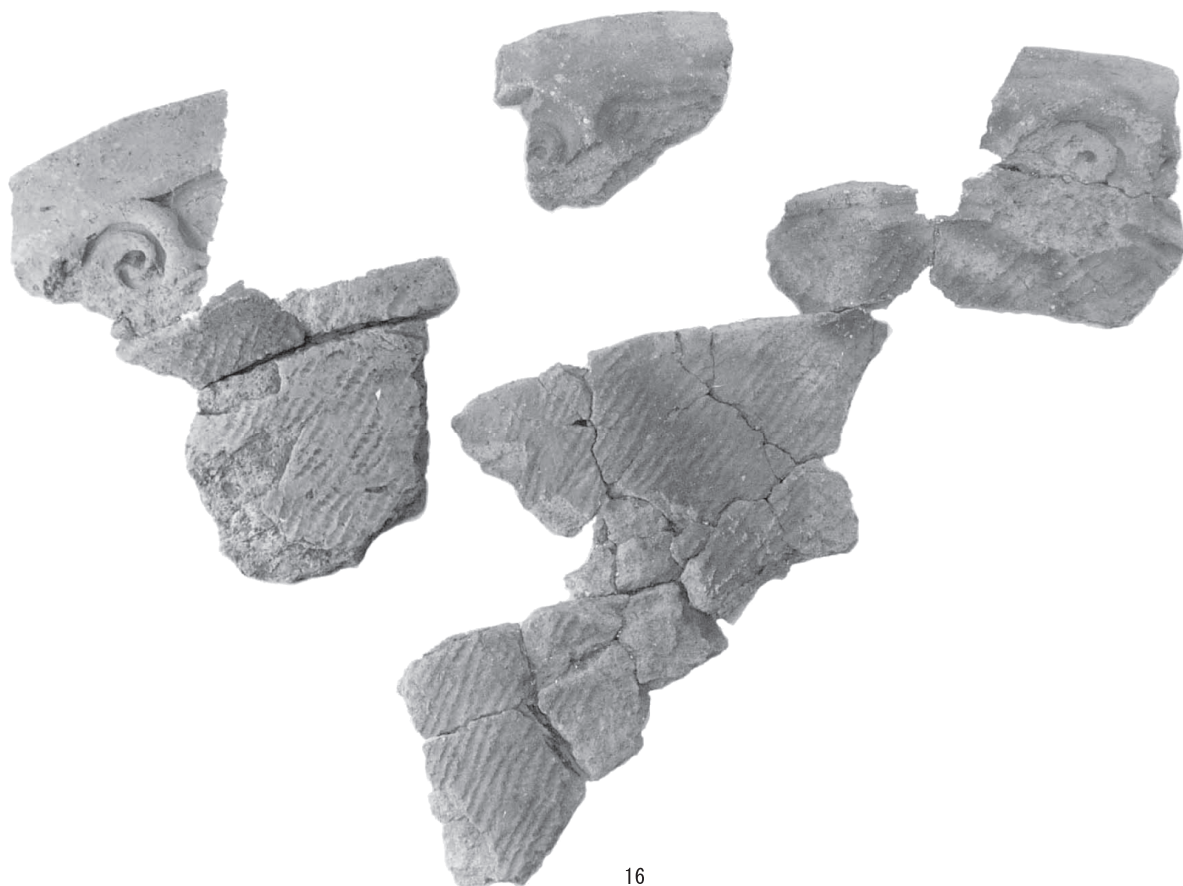
12



13

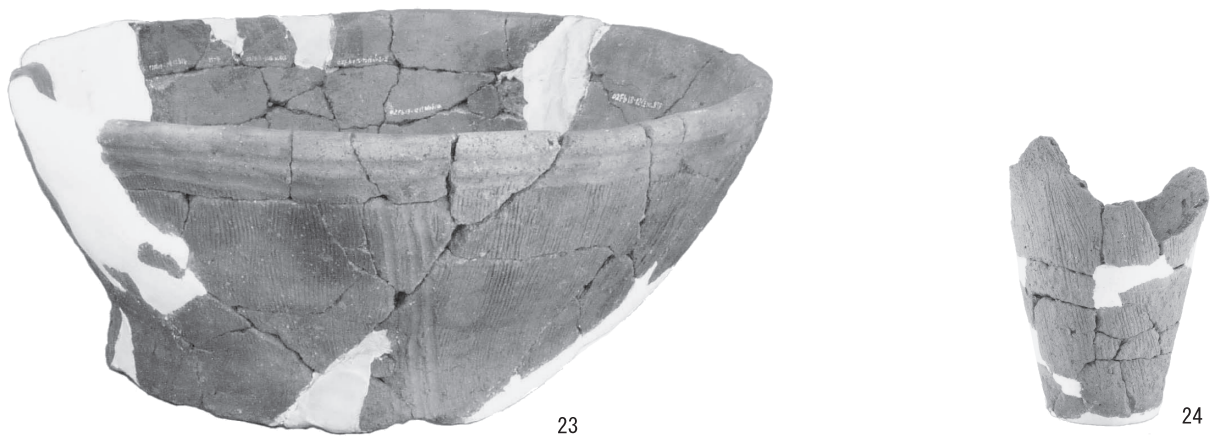


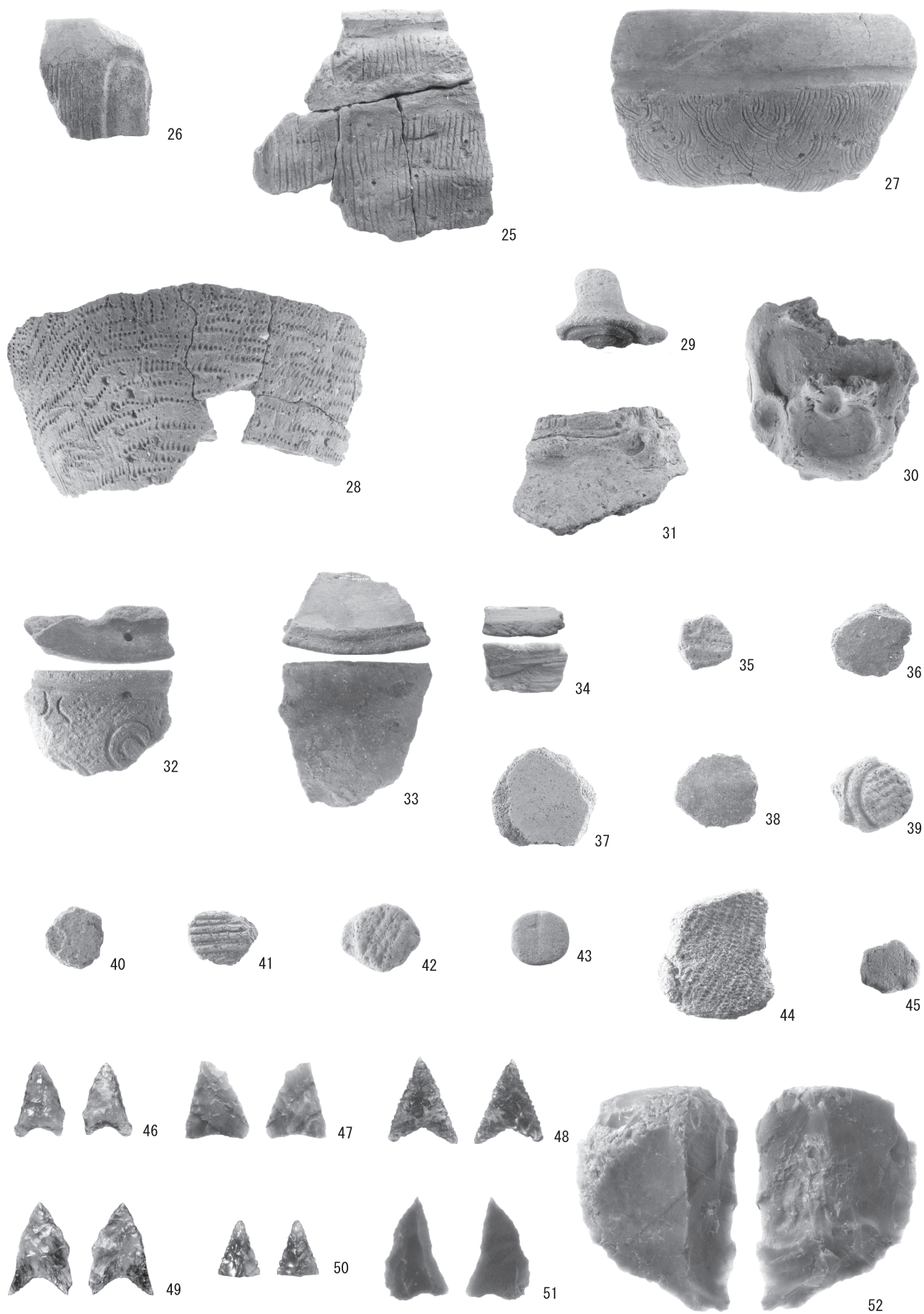
14



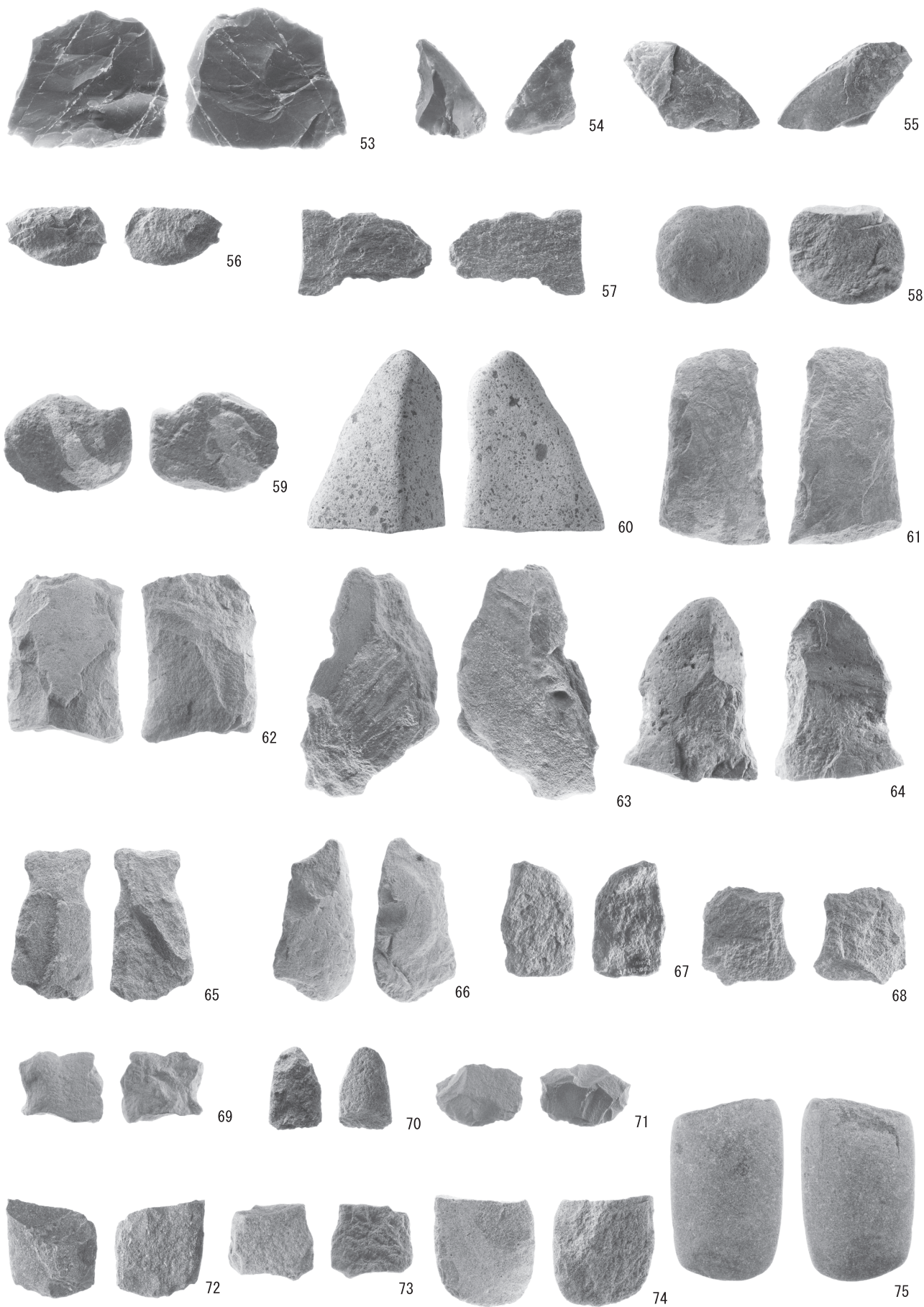
16















76



77



78



79



80



81



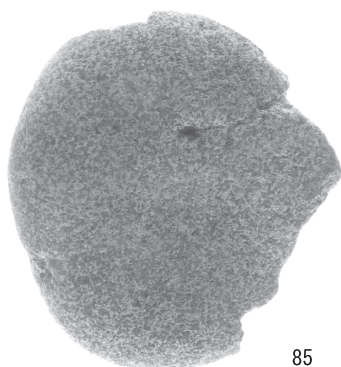
82



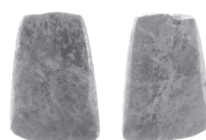
83



84



85



86



87



88



89



91



92



93



94



95

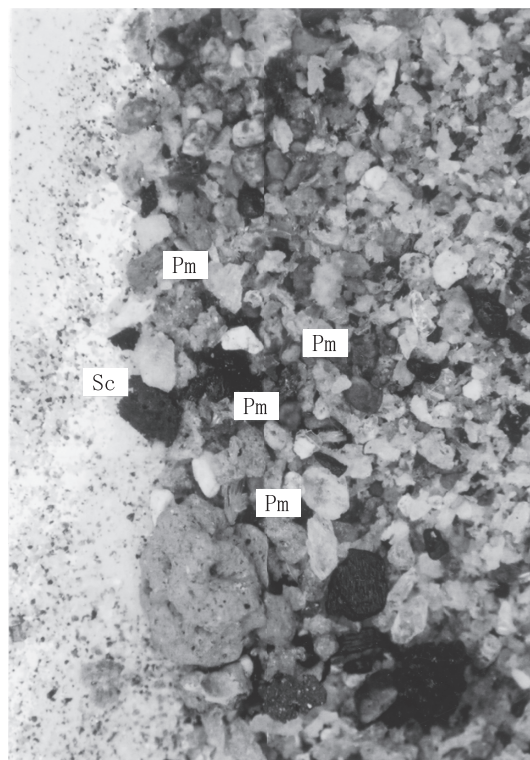


96

テフラ



1. 砂分の状況  
神明後遺跡第18地点 No.9



2. A<sub>S</sub> - Bの軽石・新期富士テフラのスコリア  
神明後遺跡第18地点 No.10

Pm : 軽石. Sc : スコリア.

2mm

